

# 2024年度 JIA 国際活動報告書

2025 年 3 月



The Japan Institute of Architects

公益社団法人 日本建築家協会

## 目 次

### JIA 国際活動カレンダー

JIA の 2024 年度国際活動の概要	竹馬大二
----------------------	------

### I 国際建築家連合（UIA）国際フォーラム 2024 クアラルンプール 参加報告

#### —JIA MAGAZINE Vol.432 の掲載記事を抜粋—

フォーラム概要と UIA の改革・課題	国広ジョージ
臨時総会概要	竹馬大二
基調講演等	高階澄人
“UIA Social Habitat Work Programme”活動報告	坂田泉

### II 国際建築家連合（UIA）Council Meeting

UIA 第 163 回カウンシルミーティング	国広ジョージ
------------------------	--------

### III 国際建築家連合（UIA）委員会/ワークプログラム

UIA Professional Practice Commission	藤沼傑
UIA Sustainable Development Goals Commission	岩橋祐之
UIA Work Programme_Architecture and Children	田口純子
UIA Work Programme_Social Habitat	坂田泉

### IV アジア建築家評議会（ARCASIA）Forum 22 Sri Lanka 参加報告

#### —JIA MAGAZINE Vol.434、435 の掲載記事を抜粋—

### V アジア建築家評議会（ARCASIA）委員会 活動報告

ACAE 建築教育委員会	柳澤要
ACGSA グリーン・サステナブル建築委員会	新居照和
ACSR 建築家の社会的責任委員会	櫻井伸
ACYA 次世代委員会	伊藤友紀

## VI アメリカ建築家協会（AIA）大会 参加報告

—JIA MAGAZINE Vol.427 の掲載記事を抜粋—

アメリカ建築家協会（AIA）・大会参加報告 ————— 竹馬大二

## VII タイ王立建築家協会（ASA）大会 参加報告

—JIA MAGAZINE Vol.426 の掲載記事を抜粋—

タイ王立建築家協会（ASA）・大会参加報告 ————— 竹馬大二

## VIII 韓国建築家協会（KIA）大会 参加報告

KIA International Architecture Festival 2024 & Exhibition ————— 小西彦仁

## IX JIA 建築家大会 2024 別府 International Presidents' Forum 開催報告

International Presidents' Forum ————— 水本浩二

Agenda

6 団体の発表資料（ARCASIA, AIA, ASA, KIRA, KIA, SIA）

## X その他の活動

“More Or Less” インドネシアの建築家 Riri Yakub 氏の展覧会とトークイベント

ドイツ・HAWK 応用科学芸術大学への TOD レクチャー@PYNT 開催報告

香港理工大学専業進修学院の学生たちとの表参道建築ツアー 開催報告

カリフォルニア大学サンディエゴ校の学生たちとの表参道建築ツアー 開催報告

中国・広東省工程勘察設計業界協会へのレクチャー@PYNT 開催報告

YouTube 動画「UIA Report」

2024 年度国際交流活動支部事業助成

## 執筆者一覧

## JIA国際活動カレンダー

年	年度	月	会議名等	開催場所・開催方法
2024	2024年度	4	国際建築家連合(UIA) WP Social Habitat 月例会議	オンライン
			タイ王立建築家協会(ASA) 大会	タイ(バンコク)
			アジア建築家評議会(ARCASIA) ACAE会議	オンライン
		5	インドネシアの建築家Riri Yakub氏の展覧会とトークイベント	東京
			国際建築家連合(UIA) WP Social Habitat 月例会議	オンライン
			国際建築家連合(UIA) Council Meeting	チュニジア共和国 (チュニス)
		6	ドイツ・HAWK応用科学芸術大学へのTODレクチャー	東京
			香港理工大学專業進修学院の学生たちとの表参道建築ツアー	東京
			アメリカ建築家協会(AIA) 大会 (JIA-AIA会議)	アメリカ(ワシントンDC)
			国際建築家連合(UIA) WP Social Habitat 月例会議	オンライン
		7	カリフォルニア大学サンディエゴ校の学生たちとの表参道建築ツアー	東京
			国際建築家連合(UIA) WP Social Habitat 月例会議	オンライン
		8	アジア建築家評議会(ARCASIA) ACAE 1st Online Forum for 2024	オンライン
		9	国際建築家連合(UIA) WP Social Habitat 月例会議	オンライン
		10	国際建築家連合(UIA) WP Social Habitat 月例会議	オンライン
		11	中国・広東省工程勘察設計業界協会へのレクチャー	東京
			韓国建築家協会(KIA) 大会	韓国(水原)
			国際建築家連合(UIA) Council Meeting, Forum, General Assembly	マレーシア(クアラルンプール)
			JIA建築家大会2024別府 International Presidents' Forum	別府
2025		1	アジア建築家評議会(ARCASIA) フォーラム22	スリランカ(コロンボ)
			国際建築家連合(UIA) WP Social Habitat 月例会議	オンライン
		2	国際建築家連合(UIA) WP Social Habitat 月例会議	オンライン



## JIA の 2024 年度国際活動の概要

竹馬大二

JIA における年間の国際活動は、概ね下記に分類できる。本報告書では下記の 1 と 2 を中心に各種大会への参加報告及び、4 や 6 のイベントの報告を行う。

1. JIA が加盟する国際団体（UIA：国際建築家連合、ARCASIA／アルカジア：アジア建築家評議会）を通じての活動：国際大会出席・理事会出席・定例会議・委員会活動等
2. JIA の協定締結国(協会)との定期的な活動：相互の全国大会開催時の大会出席、二国間定例会議等
3. 他国建築家協会等との協働イベントによる活動
4. 他国建築家協会来訪による活動
5. JIA 支部・地域会による都市間交流・視察
6. 国際委員会が主催するイベント
7. その他

2024 年度の概要は下記の通りである。

1 のカテゴリーに属する活動としては国際建築家連合(UIA) クアラルンプール・フォーラム 2024 とアジア建築家評議会(ARCASIA)の Forum 22 コロンボ大会（スリランカ）があり、例年に倣って今年度も会長はじめ担当委員を派遣することができた。UIA の 3 つの常置委員会（教育委員会・職能委員会・SDGs 委員会）および 2 つの Work Programme（Architecture & Children・Social Habitat）に委員を派遣し ARCASIA 同様に UIA においても委員会活動の活性化に努めている。今年度は 9 月に予定されていた ARCASIA FORUM 22 が開催国スリランカの大統領選挙の日程と重なってしまったため、参加者の安全確保のために開催時期を 2025 年 1 月に変更するというハプニングがあったが、無事執り行うことができた。

2 は、アメリカ建築家協会（AIA）、タイ王立建築家協会（ASA）、韓国建築家協会（KIA）の全国大会の報告である。今年度はワシントン DC での AIA 大会と水原（スオン）での KIA 大会および ASA の大会に出席できた。

4 については、今年度はインドネシア建築家協会との交流イベントを行なった。また、香港、中国、ドイツ、アメリカから学生や建築家などの来訪がありさまざまな交流を行ったので、巻末にまとめて報告する。

6 については、JIA 建築家大会 2024 別府において国際委員会が主催した International Presidents' Forum について報告する。

I

**国際建築家連合（UIA）  
国際フォーラム クアラルンプール 参加報告**

—JIA MAGAZINE Vol.432 の掲載記事を抜粋—

マレーシア・クアラルンプール

2024.11.15～11.19

# UIA国際フォーラム2024 クアラルンプール 参加報告

2024年11月15日～19日 マレーシア・クアラルンプール

## ■参加者

佐藤尚巳 (JIA 会長)  
 国広ジョージ (UIA カウンシルメンバー)  
 高階澄人 (JIA 国際委員アドバイザー、UIA カウンシルメンバー代行)  
 竹馬大二 (JIA 国際委員長)  
 坂田 泉 (JIA 国際委員、UIA・Social Habitat 委員)

## ■テーマ

DIVERSECITY

## ■会場

KLCC (クアラルンプール国際会議場)

## フォーラム概要とUIAの改革・課題

国広ジョージ (UIA カウンシルメンバー)



75年の歴史を持つUIA (国際建築家連合) の大会は3年間隔で開催されてきた。しかし、近年では、大会開催にかかる多額な経費、流動的な世界情勢で生じる安全確保の現状などが影響して、大会開催国候補の立候補数が激減する状況が生じた。これとほぼ同時期に新型コロナウイルス感染症が流行し、2022年に開催されたリオデジャネイロ大会では多くの登録者が大会への参加を辞退せざるを得ない結果を招いた。このような時代の変遷に対応するため、UIA本部は世界大会の間隔の中でテーマ性を持つ小規模の国際フォーラムを、2019年を第1回として設置しローカルレベルの建築家たちとの距離を縮める方針を固めた。

こうした流れの中、UIA国際フォーラム2024 クアラルンプールは、UIA第4地区では初めてとなる第3回目のフォーラムイベントとして開催された。

この大会に向けて、マレーシア建築家協会 (PAM) は総力を注ぎ込み最高レベルの大会を目指した。途中、Regina Gonthier UIA会長から、世界大会レベルにはならないよう規模を調整するようにとの指示までが出されるほどの全力で取り組んできた。

さらに、クアラルンプールでは3年ごとに開催されるUIA総会 (GA) での議論を待てない議案、協議事項などを扱う臨時総会 (EGA) が開催された。

2023年7月にコペンハーゲンで開催された世界大会から約1年半、私はUIA カウンシルメンバーとして、月1度の会議に出席してきた。当初Gonthier会長の掲げた活動方針は混乱状態にあるUIAの組織運営の大改革であった。2023-26期UIAカ



UIA理事会の様子

ウンシルは、この無謀とも言える大幅な事務局、執行部、各委員会、財務状況、組織運営など多々な課題についての現状分析から新たな方針策定まで一挙に行う作業を進めてきた。その評価を今回の臨時総会で参加国に諮ることで、これまでの成果についての承認を求めるのがGonthier会長の主たる目的であり、その勢いで、残り1年半の期間で一大作業を完了させる計画であった。その中で、今回最も注目され激しく議論されたUIA本部のスイス・ローザンヌへの移転についての議案では、第4リージョンの参加諸国が国際組織として公平な候補地の提案、採択プロセスを踏まず強硬に議案可決を狙った一方的な画策について抵抗し、議案を否決に追い込み移転案を封じ込める結果を生み出した。ともあれGonthier会長が総会で諮った議案の大半は承認され、今後のロードマップは明確になったことは幸いであった。

こうして、地元PAMのレベルの高いプログラムと組織力でUIA国際フォーラム2024は盛況となったが、臨時総会で浮き彫りになった対立構造を改善しながら、どのようにして2026年のバルセロナ大会までの目標達成へ導くかが、今後のUIAカウンシルの大きな課題となるであろう。

(くにひろ じょーじ/ティーライフ環境ラボ)

## 臨時総会概要

竹馬大二 (JIA 国際委員長)



マレーシア・クアラルンプールにおいて開催されたUIA 国際フォーラム2024の期間中の2024年11月18日～19日に、2024年臨時総会 (EGA) が開催された。

初日の11月18日には会長、副会長、理事会、委員会および作業プログラムの報告、コペンハーゲン大会の最終報告、バルセロナ大会の準備について報告がなされた。2日目の11月19日には、定款と規約の修正、パリからローザンヌへのUIA本部の移転、2027年のフォーラム開催都市の決定などに関して協議と議案の採択を行った。



臨時総会の様子

UIA本部の移転については、パリのモンパルナスタワーにあるUIA本部は建物の老朽化に伴い新たな事務所への移転が必要となっているが、パリに留まる場合に発生する高額な家賃負担を回避するために、UIA発足時に本部のあったスイスのローザンヌへの移転(家賃はスイス政府が補助)を執行部が提案した。しかしながら、執行部の独断であるとの意見がアジア地域を中心にあり、出席者の3分の2の同意を得られず否決された。

一方で民主的なUIAガバナンスを試みる執行部の議案(合議制ガバナンス、利益相反ポリシーの改訂、独立監査役および法律顧問の選任義務化、選挙の準備と実施に関する責任の変更、理事会委員会の制度化)などは加盟国から支持を得て可決された。

2027年フォーラムの立候補はインド建築家協会 (IIA) のみであり、無選挙で次回開催地が決定した。フォーラムは都市再生をテーマにムンバイで開催される予定だ。(ちくば だいじ/日建設計)

## 基調講演等

高階澄人 (JIA国際委員アドバイザー、UIAカウンスルメンバー代行)



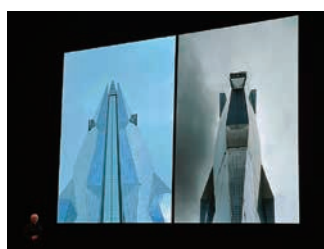
### ●基調講演

今回のUIA国際フォーラム2024では、11月15日～17日の3日間にわたり、7つのテーマセッションが設定され、それぞれに適した4人の基調講演者と15人の講演者を散りばめる形式で行われた。フォーラムのテーマ〈DIVERSECITY〉(造語)の通り、都市に幅輳する多様な課題に対し、多角度からの視点を持って対応する試みである。

以下、私の聴講した基調講演・講演の報告である。

#### 基調講演1: Karl Fender氏 (オーストリア)

フォーラムの開始にふさわしく、クアラルンプールの中心部のチャイナタウンに2023年に竣工した、ドバイのブルジュ・ハリファに次いで世界第2位の高さ(678.9m)を誇る、〈Merdeka118〉の設計者であるKarl Fender氏が登壇。数々のデザイン検討や構造スタディの結果、ダイヤモンド型平面が変化する全体構成になったこと、外観は単純矩形のインターナショナルスタイルではなく、マレーシアの多様性を示すためのファセットカットの多面体構成であること、結果として見る方向によりさまざまな水晶のような表情(クリスタリン)を持つタワーとなったこと、尖塔部分は独立時代のラーマン首相の挙手の様子の再現であることなどが説明された。コンペティション当時から、隣接する「独立広場」との関係性や、地下鉄やモノレールなどの交通インフラの結節点にある敷地の特性などに対して注意を払い計画されたことなど、極めてオーソドックスな設計プロセスが示された。政府が直接所有する投資管理団体(PNB)が発注者であったことなども非常に興味深かった。



基調講演1

#### 基調講演3: Wan Shu氏 (中国)

Wan Shu氏は独特の建築スタイルで、アジアの建築フォーラムでは長く不動の地位を守る人気建築家である。今回はパートナーのLu Wenyu氏と2人で発表を行った。建設地の歴史、文化といったコンテクストを読み込み、地場の材料や構法(ときには廃棄物まで)などにこだわりデザインされた、いくつかの芸術的アプローチによる作品紹介がなされた。建築家の感覚による表現が圧倒的に占める作品ばかりではあるが、「建築における文化的感受性」という副題に適した講演であった。

#### 基調講演4: Kai-Uwe Bergmann氏 (デンマーク)

BIGのNYパートナーであるKai-Uwe Bergmann氏は「鳥の

巣のような別荘」から「マンハッタン東岸の防災デザイン」まで、さまざまな規模のプロジェクトにおけるBIGの「自由なアイディアとデザイン言語の展開」について講演を行った。興味深いのは事務所にストックされた多数のデ



基調講演3

ザイン要素が建築の規模や種類に応じて、スケールや材料を変えて違うプロジェクトにたびたび登場するが、その適用の理由がプロジェクトごとに必要な機能、敷地の特性、構造的な合理性などそれぞれ異なっていることである。最後に〈Merdeka118〉コンペに敗れた案が披露されたが、これもペトロナスタワーと「図と地」を成す風景と計画案の機能を幾何学で表現したBIGらしいユニークなものであった。

#### 講演: Tan Luke Mun氏 (マレーシア)

開催地マレーシアからは、ARCASIAでも幅広く活躍しているTan Luke Mun氏が基調講演ではないが興味深い発表を行った。現代美術のコレクターでもある氏はコロナ禍で活動が制限される中、3棟の既存のビルを自ら購入、順次改装して収蔵品を展示し〈UR-MU (Urban Museum)〉を冠した3館(@Bukit Bintang, @Tofee, +n)をオープンさせている。そのコンセプトを「人々とアート」および「都市と文化」の「橋渡し」と定義した。この相互作用を発生させる試みこそが建築家の本質的な役割であると説明する氏の近作〈PJKita Community Centre〉にも、「都市と建築」「市民と行政」を繋ぐ意図が表現されていた。

### ●展示

KLCCホール6にて〈ARCHIDEX @ UIA〉が開催された。これはマレーシア最大の建築見本市である通常のARCHIDEX(出展者700、来場者35,000人)とは別に、UIAフォーラムに合わせて開催された小規模版で、160ブースに56の出展者であった。アジア圏でお馴染みのサプライヤーの出展の他、UIA2029北京大会を控える中国が10ブースを使って国内有数のプロジェクトを展示していたこと、FIKA(大韓民国建築家連合)が韓国文化観光省とソウル市と共にプロモーションを展開していたことなどが特徴として挙げられる。

出色は日本から鶴岡市(山形県)が有名建築家の作品体験等を商材とした観光誘致を目的として出展していたことである。行政の観光課が建築家の世界大会にきっかけを求めたことはユニークかつ日本からは初の試みであると思う。今回は同市単独



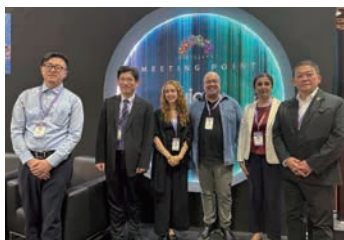
展示会場 FIKA ブース



の出展であったが、今後JIAとの協働など発展の可能性があるように感じた。

## ●SDGs トーク

UIAのSDG委員会が2022年に全世界に公募し選定の上、2023年に編集された、〈UIA Guidebook for the 2030 Agenda〉(UIA



トークセッション登壇者(右が高階氏)

ウェブサイトで閲覧可能)に掲載されたプロジェクトの設計者6名によるトークセッションが開催され、私は掲載された〈裏草津 蕩/TOU〉について発表を行った。大会参加が比較的容易なアジアからの発表が多かったが、国ごとの事情によりゴールの捉え方や設定、解決手段などに大きな違いがあった。小さなセッションではあったが、このような場に、より多くのJIA会員の出席が望まれる。(たかしな すみと／高階澄人建築事務所)

## “Social Habitat Work Programme” 活動報告

坂田 泉 (JIA国際委員、UIA Social Habitat 委員)

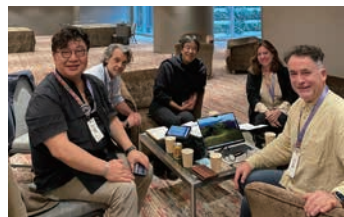


### ●はじめに

私はJIAからの派遣により、2021年9月から2年、さらには2023年12月から2年の任期で、UIA “Social Habitat Work Programme”(以下、SHWP)<sup>(注1)</sup>に参加している。本稿では、UIA国際フォーラム2024会期中の11月17日、SHWPが開催し、私もメンバーの一員として参加したセッションについて報告する。

### ●SHWPによるセッション

セッションには、SHWPメンバーのうち、Marcela Marques Abila(ブラジル | 共同代表)、Philippe Capelier(フランス | 同左)、Gustavo Vera Ocampo(ウルグアイ)、Young Keun Han(韓国)、坂田 泉(日本)が参加。テーマは、前期の集大成として



SHWPのメンバーと。左から、Han Young-Keun(韓国)、Gustavo Vera Ocampo(ウルグアイ)、坂田氏、Marcela Abila(ブラジル)、Philippe Capelier(フランス)

制作された「MANIFESTO | The Architecture of Social Habitat: Leave No One Behind」(以下「マニフェスト」<sup>(注2)</sup>)に表明された「3つの宣言」<sup>(注3)</sup>と「4本の柱」<sup>(注4)</sup>について、各国メンバーが収集した事例をもって解き明かすことである。

私は「4本の柱」のうち、「IV. HABITAT AS A RESPONSIBLE PROCESS | 『未来への責任』としての居住の場」を担当。居住環境の持続性がテーマであるが、私自身がケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大



坂田氏の発表風景

学と進めているプロジェクトを事例に、持続可能な居住の実現に向けた国際的な技術協力の意義や可能性を訴えた。

採り上げたのは、東日本大震災後の復興住宅で採用された「厚肉床壁構造」によるケニアの「社会的住宅プロトタイプモデル開発」。そして、「黒綿土プロジェクト」。

前者は日本の構造技術のケニアでの展開だが、後者はより相互の技術協力に近い。環太平洋域に遍在する問題土壌、黒綿土の資源、建材としての活用を目指すプロジェクトだが、土という自然に向き合い、日本やアフリカの諸地域で人々が培ってき

た知恵や技術が黒綿土にも有効だと考えている。例えば、日本の古い民家の土壁や土間に使われた資材や技法は、おそらくケニアの土づくりの家で用いられたもの

と多くの共通点や共有できる原理を持ち、黒綿土の活用にも適用可能なのではないか。

気候変動や資源の枯渇、環境汚染といった地球規模の課題を抱え、地球の人口がますます膨張していく中、居住環境の持続的な実現に向け、地域を越え、お互いが持っている知恵や技術を共有することは、技術協力のもっとも重要な意義だと思う。知恵の共有なくして、私たちは地球に住み続けることはできないからだ。短い時間のプレゼンテーションではあったが、国境を越えた技術協力の重要性は伝えることができたのではないだろうか。

### ●バルセロナへ

次は2026年6月のバルセロナ大会。SHWPではすでに準備が始まっている。

See you in Barcelona!

注1: SHWPは17か国、19名の常任メンバーの他、12か国、12名の「Correspondants」から構成され(2024年12月現在)、オンラインによる月例ミーティングの他、タスクごとに組織された小グループによるミーティングを継続している。

注2: 「マニフェスト」英語版と多国語版は下記のリンクまたはQRコードを参照のこと

<https://www.uia-architectes.org/en/resource/the-architecture-of-social-habitat-leave-no-one-behind/>



注3: 「3つの宣言」は以下の通りである。

1. THE RIGHT TO HOUSING IS A RIGHT TO THE HABITAT | 住居の権利とは居住する権利である
2. THE RIGHT TO THE HABITAT IS UNIVERSAL AND INALIENABLE | 居住する権利は普遍的かつ誰にも譲渡できない権利である
3. THE RIGHT TO THE HABITAT IS EFFECTED BY THE ARCHITECTURE | 居住する権利は建築によって実現される

注4: 「4本の柱」は以下の通りである。

- I. HABITAT AS A HOME | 「住まい」としての居住の場
- II. HABITAT AS A CORE | 「核」としての居住の場
- III. HABITAT AS AN ORGANISM | 「統合体」としての居住の場
- IV. HABITAT AS A RESPONSIBLE PROCESS | 「未来への責任」としての居住の場

(さかた いずみ／一般社団法人OSAジャパン)

II

## 国際建築家連合（UIA）Council Meeting

チュニジア・チュニス

2024.5.20～5.21

# UIA 第 163 回カウンスルミーティング

チュニジア共和国・チュニス リージェントホテル

国広ジョージ

## ■行程

- 5/16（火） 東京出発
- 5/17（水） ドーハ経由チュニス到着
- 5/18（木） チュニス視察
- 5/19（金） ミーティング準備、ウエルカムディナー
- 5/20（土） 第 157 回カウンスルミーティング（第一日目）
- 5/21（日） 第 157 回カウンスルミーティング（第一日目）
- 5/22（月） OAT（チュニジア建築家協会）50 周年フォーラム、チュニス出発
- 5/23（火） 帰国

## ■概要

2023-26 年期では、定例カウンスルミーティングが月一回の日程で開催されている。その中で、年間を通して一回は対面会議を開催することになっている。昨年は 11 月にパリ UIA 本部でカウンスルミーティングが開催された。今回は、OAT（チュニジア建築家協会）50 周年にあたることから、同協会がこの時期にカウンスルミーティングを招聘することになった。その結果、式典に UIA 会長以下カウンスルメンバーが出席し、式典が華やかに国際性をアピールする 50 周年と言う節目の大会となった。

### 5 月 16 日

深夜便で成田よりカタール経由でチュニスに向けて出発した。

### 5 月 17 日

午後に現地へ到着。当日は自由行動、及び休養。

### 5 月 18 日

到着組はチュニジア代表カウンスルメンバーの Sahby Gorgi 氏の案内により、市内観光に参加した。

### 5 月 19 日

ホテルにて会議の準備を行なった。

ホテル内のレストランにて開催された OAT 主催のウエルカムディナーに出席。

### 5 月 20 日(カウンスルミーティング第一日目)

議題に沿って各会長、副会長、書記、財務担当、各種委員長などの報告が行われた。

## 5月21日(カウンスルミーティング第二日目)

2023 年度財務報告、及び 2024 年度収支報告、修正予算報告が行われ承認された。その後、将来検討委員会、イベント委員会からの報告が承認され、また、会長経験者の立場、発言権、カウンスルミーティングへの出席権などについての議論も展開された。そして、規約の改訂検討する委員会からの報告についても、活発な意見交換が行われた。こうして、2 日間にわたる第 163 回カウンスルミーティングは閉会した。夕食は、ホテル内で開催されたフェアウェルディナーでカウンスルミーティングを締め括った。

## 5月22日

OAT（チュニジア建築家協会）50 周年フォーラムが開催された。午前の部は式典が、午後の部はフォーラムにおいて論文発表が行われた。国広は午前中の式典に出席した後、退席して空港に向かいドーハ経由で帰路についた。

## 5月23日

成田空港に帰国した。

### ■所感

UIA 第四リージョン代表のカウンスルメンバーに選出されてから 1 年経過した。当初、第一回のカウンスルミーティングがコペンハーゲンで開催された際には、UIA の運営問題が如何に深刻かは全く推測できなかった。その後、これまでのカウンスルの開催数をはるかに上回る月一回の開催により、急遽 UIA 本部機能の現況、財務状況、各委員会、ワークプログラム、コミッションの管理状況などが分析され、それらの報告についてカウンスル内で様々な議論が展開した。そして 5 ヶ月を経過した 10 月には、パリ本部にて初の対面カウンスルミーティングが開催された。そこでは、改革案の発案、委員会設置などが決定し、執行部による報告が行われた。これらの経緯を持って、2024 年初頭から、各委員会において、UIA のあるべき姿の再構築に向けての方針、方法論などの策定を進めてきた。また、UIA 本部のスタッフによる職務怠慢、辞職など、事務局長不在 5 年と僅か 5 名のスタッフで国際組織を運営してきた結果、事務局機能が深刻な状態に陥るという事件が勃発した。執行部は、これに対応するため、外部人事担当コンサルタント、2 名の委員会担当アドバイザーの起用、第一リージョン代表カウンスルメンバーによる本部運営へのボランティア参加など緊急処置を導入、組織運営への支障回避を目指した。

上記の状況の中、この度のチュニス会議では、11 月にクアラルンプールで開催される UIA2024KL フォーラムの際に開催される特別総会で決議を求める議案への最終協議が行われた。結果としては、各議案の準備は概ね整ったと言う感触を得た。チュニス会議の結果を踏まえて、6 月からオンライン会議戻り、改革案の発表に向けて細部の調整を行なっている。

一方で、チュニス会議は OAT（チュニジア建築家協会）の 50 周年記念フォーラムに合わせて開催された。OAT としては、チュニジア国内においての建築職能の確立と独占領域の法的保証などの問題に取



り組んできた中で、UIA の上層部の参加により、UIA のプレゼンスが外圧として効果的にアピールできることを目指したようであった。フォーラムには、地元建築家が 200 名ほど参加して、午前の式典と基調講演、さらに午後のフォーラムにての発表セッションを見守っていた。

国際組織のオンライン会議は複数のタイムゾーンを超越して開催されることで、アジア地区では月一の深夜会議（平均所要時間 3 時間）を、年間を通して体験してきた。UIA のオンライン会議は効果的であり、且つ経済的でもある。しかし、各メンバーの心身への負担も大きいと感じるところである。一方で、年一度の対面会議では、数日間の共有時間でメンバー同士が親交を深められる貴重な機会であることは、前回のパリ本部での会議の際に全員意見が一致した。

私見だが、UIA が世界を繋ぎ、建築家たちの利権の保証と職能環境の向上に寄与する団体として、正常に機能する組織に戻すことを、我々 2023-26 年期カウンスルは努力していることをチュニスで実感したのである。



集合写真



第 163 回 カウンスルミーティングの様子





北アフリカからみる地中海



古代カルタゴ遺跡



左から Zhang Li (リージョン IV 副会長)、Debatosh Sahu (リージョン IV)、Rui Leao (Secretary General)、Han Youngkeun (リージョン IV)、国広ジョージ (リージョン IV)



右端が OAT (チュニジア建築家協会) 会長 Leyla Ben Jeddou



UIA 会長 Regina Gonthier



リージョン V (アフリカ) のカウンシルメンバー Hayatte Ndiaye





OAT（チュニジア建築家協会）の 50 周年フォーラムの様子



OAT（チュニジア建築家協会）の 50 周年フォーラムの様子

# III

## 国際建築家連合（UIA）委員会/ワークプログラム 活動報告

# UIA Professional Practice Commission

藤沼 傑

2023 年コペンハーゲン大会において新会長 Regina Gonthier のリーダーシップのもと、PPC 委員会は Philippe Klein 委員長（フランス）により 2026 年バルセロナ UIA 大会を目標に活動している。2023 年まで討議していた課題が 12 項目と多く、消化不良となっていたので、8 項目に縮小してバルセロナ大会での実質的な成果を出すことを目標としている。

## 1. 各国建築家活動基礎情報（ARCHITECTURAL PRACTICE AROUND THE WORLD DATA BASE (APAW)）

前委員長の時から各国の情報を収集してきたが、加盟国の過半に達していない状況となっていた。PPC 委員国 34 か国の基礎情報はほぼ集まり、PPC 委員がいない国の情報を今年 2025 年中に整備することを目標としている。

## 2. 建築家の職能及び歴史的経緯の整理（THE ROLE OF ARCHITECTS AND THE EVOLUTION OF THE PROFESSION）

建築家の職務は各国で微妙に異なるため、その詳細情報を収集し、実態に適応した UIA アコード改訂を目標としている。PPC 委員の職務内容収取が終わり、UIA アコード改定案を検討している。

## 3. 建築家に関する各種法規定及び組織（REGULATION OF THE PROFESSION and PROFESSIONNAL ORGANISATIONS）

UIA にはこれに関連する 8 つの書類があるが、それらを改訂すべきかを検討している。

## 4. AI

AI が建築家の職能にどのような影響があるのかを議論している。このテーマに関しては、中国の委員が積極的に情報発信を行っている。

## 5. デジタル化時代における知的所有権

2017 年に建築家の知的所有権に関するポリシーを UIA は発行しているが、この改定が必要かと検討している。

## 6. 賠償責任及び保険（LIABILITY, RESPONSABILITIES, INSURANCES）

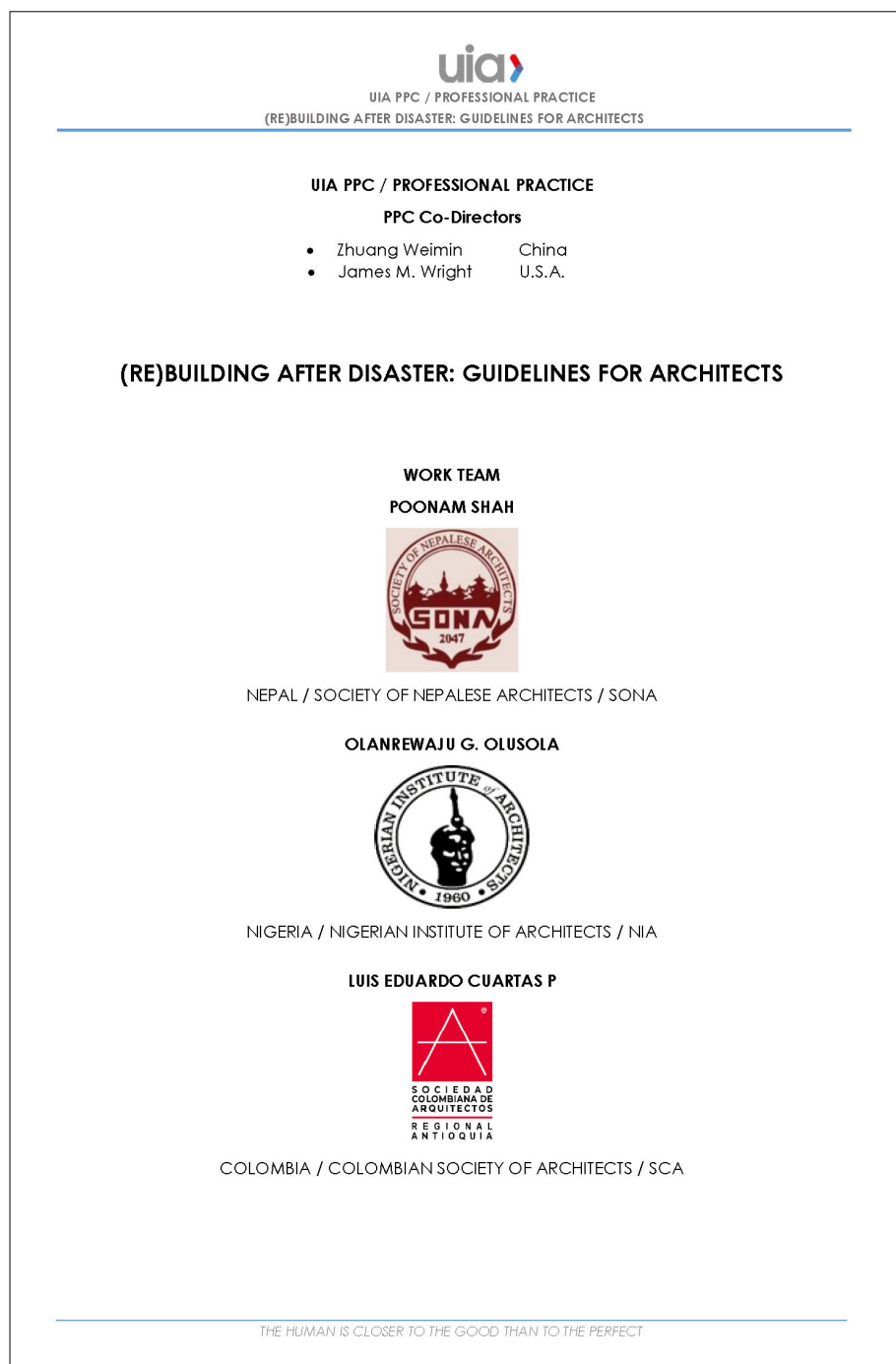
建築家の法的責任（判例も含む）は各国でかなり異なると思われる。どのように違うのか、各国のアンケート調査を実施し、バルセロナ大会までに集計結果をまとめることを目標としている。

## 7. 男女平等 (GENDER EQUITY)

DEI (Diversity Equity Inclusion) に関しては、既に最終報告書が出来ているが、理事会承認がされていない。2017 年クアラルンプール・ポリシーの改訂も必要になる可能性があり、最終的な調整を行っている。

## 8. 災害復興 (REBUILD AFTER DISASTER)

これも最終報告書が 2023 年に完成しており、理事会承認のための作業を続けている。



2023 年コペンハーゲン大会で採択された災害復興 (REBUILD AFTER DISASTER) ガイドライン。  
2011 年東北大地震で提唱された Build Back Better も含まれている。

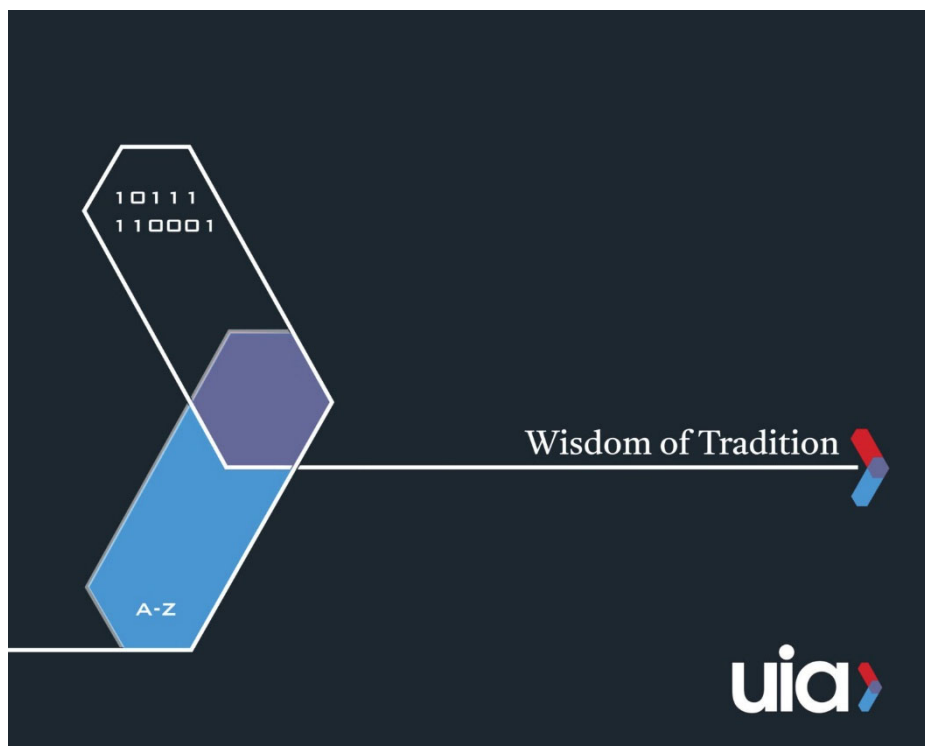
## UIA Sustainable Development Goals Commission

岩橋祐之

2023-26 年期において、従来の UIA の SDGs の委員会は再構成され、従来の建築ガイドブックの発行を主とする **UN 17 SDGS TASK FORCE** と、あらたに再考を目的とした **REFLECTION TASK FORCE** の2つの独立した委員会として活動することとなった。JIA からは岩橋が後者の委員会の運営委員として参画し、気候変動への適応に向けた持続可能なアプローチにおける文化や文脈の役割に焦点を当て「温故知新」をテーマとした出版に向けたプロジェクトの募集を企画し、現在 UIA 本部への中間報告と編集構成の協議を行っている。なお、「温故知新」とは、伝統的な知識や慣習を現代的な文脈で再利用する方法を追求し、特に現代技術として取り入れた事例を募集し、ノスタルジーや模倣を避けつつ、伝統に内在する知恵や、現代の持続可能な解決策を鼓舞する可能性を求めています。その他、委員会活動としては、各分野の専門家とのインタビューをおこなっており、あわせて編集・出版を本委員会の目的としている。

「温故知新」UIA 選考委員会

<b>Region I</b>	Fionnuala Rogerson (Ireland)
<b>Region II</b>	Mihaela Harmanescu (Romania)
<b>Region III</b>	Carlos Zeballos-Velarde (Peru)
<b>Region IV</b>	Yuji Iwahashi (Japan)
<b>Region V</b>	Emna Bchir (Tunisia)



「温故知新」(Wisdom of Tradition) 作品募集のプロモーションビジュアル



# UIA Work Programme \_ Architecture and Children

田口純子

私は JIA からの派遣により、UIA Work Programme Architecture and Children（以下 ACWP）の日本代表メンバー兼地域ディレクター（Region 4: Asia and Oceania）として活動している。ACWP のメンバーは以下のように構成されている。

- ・ Co-directors：2 カ国 2 名（ルーマニア、コスタリカ）
- ・ Advisor：1 名（フランス）
- ・ Members：24 カ国 24 名（各国建築家協会からの派遣あり）
- ・ Correspondents：20 カ国 22 名（派遣なし、情報を求める人がオープンに参加できる）
- ・ ACWP ウェブサイト：<https://www.architectureandchildren-uia.com>

ACWP の主な事業には以下のものがある。

## 1. UNESCO/UIA 子どもと建築憲章の普及

建築家や行政・学校等が協力して行う、子どもや若者を対象とした建築教育・都市環境教育の活動・教材を表彰する事業。UIA2023 コペンハーゲン大会で、日本からの推薦作品が「学校部門最優秀賞」を授与された（藁小屋造りを中心とした体験型学習～「円庭」づくりの一環として～／社会福祉法人ひとのね、西海園芸、くさかんむり、左官都倉、ブルームーンデザイン事務所、まちのアトリエ、設計機構ワークス）。

次回は 2025～26 年度にかけて、UIA2026 バルセロナ大会に向けた国内審査が行われる。

（JIA ゴールデンキューブ賞（国内審査）ウェブサイト <http://www.jiagoldencubes.com/index.html>）

## 2. UNESCO/UIA 子どもと建築憲章の普及

子どもの権利条約を基本理念に、建築教育・都市環境教育の意義を行政や学校等に伝えるための憲章文。英語版は 2019 年、日本語訳版と、内容を絵本にした『ほしとぼくらがすむところ』は 2022 年に公開された。

（JIA 教育文化事業ウェブサイト：[https://www.jia.or.jp/activity/bee\\_jia/](https://www.jia.or.jp/activity/bee_jia/)）

## 3. UIA 2024 International Forum クアラルンプール

ACWP の事業報告と、セミナーを実施した。セミナーは現地・オンラインのハイブリッドで実施され、はじめに『子どもの建築憲章』の内容と各国の事例が紹介された。後半には、ポストパンデミック時代の教育変化への対応や、紛争・政情不安等による影響から子どもの権利を守るための内容更新について議論が深められた。





KIA 2024 International Forum クアラルンプールでの活動の様子（提供：ACWP）



KIA 2024 International Forum クアラルンプールでの活動の様子（提供：ACWP）

# UIA Work Programme \_ Social Habitat

坂田泉

私は JIA からの派遣により、2021 年 9 月から 2 年（以下「第 1 期」という）、さらには 2023 年 12 月から 2 年（以下「第 2 期」という）の任期で UIA の "Social Habitat Work Programme"（以下、SHWP）に参加している。

SHWP は以下の 17 か国、19 名の常任メンバーの他、12 か国、12 名の「Correspondants」から構成され（2025 年 2 月現在）、オンラインによる月例ミーティングの他、タスクごとに組織された小グループによるミーティングを継続している。

- **Region 1\_西ヨーロッパ**：Philippe Capelier（フランス | 共同代表）・ Jacopo Gresleri（イタリア）・ Stefano Troppea（同左）・ Sergio Garcia-Gasco Lominchar（スペイン） / 計 4 名
- **Region 2\_中東欧・中東**：Rivka Gutman（イスラエル）・ Bulent Batuman（トルコ） / 計 2 名
- **Region 3\_北中南米**：Marcela Marques Abia（ブラジル | 共同代表）・ Mariana Flores Grcia（メキシコ）・ Elizabeth Ananos Vega（ペルー）・ Maria Teresa Jorge Dos Santos（ウルグアイ） / 計 4 名
- **Region 4\_アジア・オセアニア**：Kylie Mills（オーストラリア）・ Sing Yeung Sunnie Lau（香港）・ Young Keun Han（韓国）・ 坂田 泉（日本） / 計 4 名
- **Region 5\_アフリカ**：Lotif Zeroual（アルジェリア）・ Sherif Morgan（エジプト）・ George Arabbu Ndege（ケニア）・ Agata Christie Irabor（ナイジェリア） / 計 4 名

第 2 期の活動のハイライトは、2024 年 11 月にクアラルンプールで開催された UIA International Forum（以下、クアラルンプールフォーラム）における SHWP 主催のワークショップである。その詳細は別稿（本書、「I. 国際建築家連合（UIA）International Forum 参加報告」参照）に記載したが、第 1 期の活動の集大成として制作された「MANIFESTO | The Architecture of Social Habitat: Leave No One Behind」（以下「マニフェスト」という）の内容を、各国メンバーが収集した事例に基づき解き明かすものであった。私は、ケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学と進めているプロジェクトを事例に、持続可能な居住の実現に向けた国際的な技術協力の意義や可能性について報告した。

また、クアラルンプールフォーラムに先立つ 2024 年 11 月 5 日～11 月 8 日にカイロにおいて開催された「World Urban Forum (WUF12)」では、SHWP 協同代表の Marcela Marques Abia 他、エジプトの Sherif Morgan、ナイジェリアの Agata Christie Irabor が参加した。WUF21 には、共催機関である UNDP の他、居住関連の様々な国際機関、団体（例：International Institute for Environment and Development (IEED)、Habitat International Coalition (HIC)、United Cities and Local Governments

(UCLG) 等) が参加しており、SHWP としては今後の活動において、これらの機関、団体との連携を進めるべく検討している。

2026 年 6 月にはバルセロナ大会が予定されているが、SHWP は同大会において маниフェストを柱とした何らかの企画を実施すべく、2025 年 1 月以降の定例会議、タスク別グループの会議で協議を続けている。



クアラルンプール・フォーラムにおけるワークショップ



World Urban Forum 21 への参加

# IV

## アジア建築家評議会（ARCASIA）Forum 22 Sri Lanka 参加報告

—JIA MAGAZINE Vol.434,435 の掲載記事を抜粋—

スリランカ・コロンボ

2025.1.14～1.18



## ARCASIA Forum 22 参加報告 1

2025年1月14日～18日 スリランカ・コロンボ

今号と次号の2号にわたって、JIA国際委員会からのARCASIA Forum 22の参加報告を掲載します。

ARCASIA Forum 22は、2025年1月14日から18日にかけてスリランカのコロンボで開催された。本フォーラムは、アジアの建築家が一堂に会し、建築と環境に関する最新の知見を共有する場として2年に一度開催されている。JIAからは、佐藤会長、竹馬国際委員長、新居AGSA委員、柳澤ACAE委員、櫻井ACSR委員、伊藤ACYA委員が代表団として参加。また、国広元ARCASIA会長もフェローとして参加された。

今回のテーマは、“Polymathic Excellence: Crafting Narratives, Designing Tomorrows”であり、持続可能性や包括性を重視した建築の役割を再定義することを目的とした。会期中には基調講演やパネルディスカッション、ワークショップが実施され、最新のデザイン動向や革新的な取り組みが発表された。また、スリランカの文化や建築遺産を紹介するツアーが企画され、各国の多様な文化を称えるフレンドシップナイトも開催された。

## ■参加者

佐藤尚巳会長、国広ジョージ元ARCASIA会長、  
竹馬大二国際委員長、新居照和ACGSA委員、  
柳澤要ACAE委員、櫻井伸ACSR委員、伊藤友紀ACYA委員

## ■テーマ

Polymathic Excellence: Crafting Narratives, Designing Tomorrows

## ■会場

B.M.I.C.H (バンダラナイケ記念国際会議場 (コロンボ))

## 建築教育委員会 (ACAE)

柳澤 要 (JIA国際委員会ACAE委員)



ACAE (アルカジア建築教育委員会) は、各国の大学の建築教育やインターンシップなどに関わる委員会で、第44回アルカジア建築教育委員会は2025年1月14日(火)10:00～18:00に開催された。委員会には加盟22カ国中15カ国が参加し、そのうちオンライン参加は3カ国であった。主要な議題は各国の代表からのカントリーレポートで、おおむね共通なテーマは、組織体制、大学の建築教育への貢献、教育認定の概要、建築士資格の国際対応、研究・教育プログラム、講演会・セミナー、ワークショップ、国際会議・国際交流、研修、学生コンペ・ジャンボリー、出版、展示、将来計画などであった。またACAEの目標



ACAEの様子

の確認(各国のACAEの協力促進、ARCASIAの枠を超えた活動の展開、アジアの建築教育への貢献)、今後の活動・スケジュール確認もなされた。

(やなぎさわ かなめ/千葉大学)

## 職能委員会 (ACPP)

竹馬大二 (JIA国際委員長/ACPP委員)



ARCASIAの職能委員会(ACPP: ARCASIA Committee on Professional Practice)は、アジア地域の建築家の実務に関する課題やベストプラクティスを検討し、各国間の協力と調和を促進することを目的としている。

ARCASIA FORUM 22全体のテーマは“Polymathic Excellence: Crafting Narratives, Designing Tomorrows”であり、ACPPの会合もこのテーマに沿って、未来の建築実務の在り方や多様な視点を取り入れたデザインの可能性についての議論が行われた。

BIMによる確認申請にいち早く取り組み設計プロセスのデジタル化を推進するシンガポールの建築家であるCK Lim氏は、AI(人工知能)と建築の融合に関する講演を行い、AIが建築設計プロセス、建設方法、そして建築環境の機能性に革命をもたらす可能性について言及した。具体的には、AIのデータ分析能力がデザインの効率性と持続可能性を高め、創造性を促進し、建設プロセスの合理化、コスト削減、安全性の向上に寄与することが強調された。さらに、AIを活用した空間は、居住者に



ACPPの様子

パーソナライズされた体験と最適化された快適性を提供する可能性があると述べた。また、参加国からは、AIの普及とそれが及ぼす実務上の課題や各国のAIによる設計の普及状況が発表され、AIと共生する設計方法論について引き続き情報共有を行うことが確認された。

(ちくば だいじ/日建設計)

## グリーン・サステナブル建築委員会 (ACGSA)

新居照和 (JIA 国際委員会 ACGSA 委員)



2025年1月14日にコロンボで開催された ARCASIA 大会では、「AI イノベーションによるカーボンニュートリティ達成のための統合カーボンキャプチャーおよび貯蔵技術の進展による持続可能な未来」がテーマとなり、AI 技術を活用した環境問題解決の進展について議論が交わされました。各国の事例紹介と、シンガポールや中国、インドが CCS 技術でリーダーシップの発揮が期待されること、AI 導入の利点と課題が議論されました。また、AI 技術の導入には慎重なアプローチが必要であり、技術格差や倫理的配慮への対応が求められました。最後に、脱



ACGSA オンライン参加者と仲間たち

炭素社会に向けたガイドブック作成とアイデアコンペが提案され、今後の活動方針が確認されました。

(にいてるかず／新居建築研究所)

## 建築家の社会的責任委員会 (ACSR)

櫻井 伸 (JIA 国際委員会 ACSR 委員)



2025年1月14日からスリランカ・コロンボで開催された ARCASIA FORUM 22 の ACSR (建築家の社会的責任) 委員会に参加した。委員会には18か国の委員が参加した。

委員会の冒頭“Charter on Social Responsibility 2024 Revision1 (ACSR 憲章)”の策定に際しての経緯と内容説明があった。今回の改訂は2015年に発行された最初の憲章の改訂と位置付けられている。これまで ACSR で議論されてきた災害・孤立したコミュニティ・ユニバーサルデザイン等、多くの諸問題に対する建築家の責任についての提言が収められている。この憲章は1月15、16日に行われた理事会の中で承認され、今後、ARCASIA 加盟国の建築家協会にも幅広く共有が進められていく。

委員会では“Marginalized Community (疎外されたコミュニティ)”について参加各国から報告が行われた。内容は各国の置かれた状況により、災害復旧、過疎化、街区の老朽化、難民問題等、幅広い内容で行われた。JIA からは私が所属する久



ACSR のメンバー

米設計で行った逗子の「旧本多邸」の改修について「建築家の保存への取り組みとコミュニティの参画」という視点で発表を行った。「Universal Design/Wellness Design」についても議論を行う予定であったが、最初のトピックにおける議論が予定時間を大きく超え、次回の ACSR へ持ち越しとなった。

(さくらい しん／久米設計)

## 次世代委員会 (ACYA)

伊藤友紀 (JIA 国際委員会 ACYA 委員)



若手建築家委員で構成される ACYA 委員会は、14か国が現地参加、1か国がオンライン参加し、2部形式で開催された。

第1部：カントリーレポートでは、前年の若手建築家に関する活動を各国が報告した。建築士資格の新規取得者数、講演会、展覧会、スポーツ大会、女性建築家の奨励活動のほか、台風被害のための義援金活動等が報告された。日本が発表した国内活動のうち、寺院での学生ワークショップ事例や建築家と僧侶のトークイベントは、仏教徒が多いメンバー国には新鮮に映ったようで反響があった。

第2部：国家間コラボレーションの提案では、国際ウェビナーの順次開催、各国8名(4若手建築家×4学生)を1ユニットとした交流ワークショップ等が提案された。

結論として、1.協会間のコラボレーションは、ACYA の根



ACYA のメンバー

幹を為し 2.二国間でも ACYA 全体でも行うこと 3.本会議で議論された全計画を実行に移すよう努め 4.若手建築家のエンパワーメントは出席者全員の共通目標である、と記した覚書を作成した。

(いとう ゆき／伊藤友紀建築研究所)



## 海外レポート

# ARCASIA Forum 22 参加報告 2

2025年1月14日～18日 スリランカ・コロンボ

### 理事会

竹馬大二 (JIA国際委員長／ACPP委員)  
柳澤 要 (JIA国際委員会ACAE委員)



今回のARCASIA Forum 22には加盟する22カ国のうち19カ国が参加して行われ、組織運営について協議を行う理事会は1月15日と16日の2日間にわたって国際会議場であるBMICHで開催された。1日目は規約の改正、新規会員の承認、会費未納会員の対応などのアドミンマターの協議と各国の近況発表等が行われる。今回はカンボジア(AAK)とモルジブ(AAMmv)がARCASIA加盟の申請を行い全会一致で承認された。これによりARCASIAの加盟国は24カ国になる。また各国の発表はゾーン別のテーマに沿って行われた(ゾーンA(南アジア)はESG、ゾーンB(東南アジア)はSDGs、ゾーンC(東北アジア)はAI)。JIAからはAIによる製作物

### カンファレンスプログラムと パラレルセッション

新居照和 (JIA国際委員会ACGSA委員)



ARCASIA Forum 22の2日間の主要イベント、カンファレンスプログラムの4つのセッションと、2日目の9つのパラレルセッションを報告します。

セッションのテーマ「多才な卓越性：物語を紡ぎ、明日をデザインする」では、建築、技術、持続可能性、文化的アイデンティティに関する多様な議論が行われました。朝のセッションAでは、Ar. Caroline Bosが都市問題をコミュニティベースに建築を展開することを紹介し、Ar. Thomas SpiegelhalterはAIの建築分野への応用について深い洞察を示しました。彼は、建築家が消費を促進する役割に疑問を投げかけ、建築が持つ社会的責任について触れました。Ar. Ishtiaq Zahir Titasは「グローバルな人間であり、ローカルな建築家であれ」という言葉を引用し、地域密着型の持続可能なデザインの重要性を強調しました。

午後のセッションBでは、Ar. Eran Chenが施主とチームの力・法律を駆使し、ダイナミックな形態の都市建築がつくる共有空間

を紹介しました。Ar. Onur Tekeは小規模プロジェクトが社会に与える影響力を語り、ハイテクと手描きや模型を組み合わせた手法の魅力を示しました。Ar. Welandaweは「アンチグローバルイズム」を掲げ、ローカルな材料で新しい表現を目



カンファレンスセッションの様子

### 大会を振り返って

国広ジョージ (元ARCASIA会長)



ARCASIA Forum 22は、スリランカの首都コロンボで昨年10月に開催を予定されていたが、現地の大統領選の投票日と重なったことから、恒例となっている選挙後のストライキなどの騒動を予想して、急遽2025年1月に開催されるという異例の状況下で開催された。会場も郊外のジェフリー・バワ建築として名高いカンダラマホテルから市内の会場に移されたが、ARCASIA各国の参加者による組織としての協調性が功を奏して、例年と変わらず和やかな雰囲気で大大会が運営されたことはホスト団体であるスリ

蘭カ建築家協会の尽力であったことは間違いない。今回の大会では、新たに次期会長としてWu Jian氏が選出され、数十年ぶりに中国から会長が生まれることになった。

恒例のフレンドシップナイトには、JIAを代表して新居会員とヴァサンティ夫人の2名が参加され、日程変更で代表団数人が帰国を強いられ、またコロナに佐藤会長と小生が倒れた中、我々の想いまでも背負い熱演されたという報告を受け、ほっとして帰国したのであった。

ARCASIAはアジアを代表する国際的な建築家による連合体である。JIAには、国際事業としてさらに重点的、そして積極的にARCASIAへの参加を期待したい。



指しながら社会性をもたらす建築を示しました。Ar. Gurjit Singh Matharooは限られた資源・材料を効果的に活用し、彫刻的な要素を取り入れたユニークな建築を提案しました。また、セッションCで、David Saladikは社会的に弱い立場の人々、コミュニティに入り、さまざまな疾病の源をおさえた建築に迫り着き、健康と公正を意識する環境を示しました。歴史家Jaimini Mehtaは西洋とインドの歴史観の違いを述べ、インド建築の概念を説明し、文化的アイデンティティの役割を述べました。最後に、Ar. Palinda Kannangaraは仏教的な視点から自然との調和を大切に建築を提案しました。

私達が発表したパラレルセッションでは、「人間と自然を結びつけるコスモロジーの構築」をテーマに、四国での地域建築活動を紹介しました。地元のスギ材を使った森林の活性化や、風景と水・物質循環を意識したバイオ・リジョナルアプローチを示しました。バングラデシュは深刻な地球環境と建築のあり方を問い、スリランカからはグローバル経済に対する地域の持続可能性の葛藤が語られました。

映画「Geoffrey Bawa - The Genius of the Place」の上映と、Bawaの建築作品を巡るツアーでは、彼のデザイン哲学を体感する貴重な機会が提供されました。全体を通じて、地球環境危機下で、建築がそれぞれの国・地域の文化、社会、環境にどのように拓くのか、さまざまに思考を深める貴重な機会となりました。

(にいてるかず／新居建築研究所)



新居氏(左から2番目)もパラレルセッションに参加

V

**アジア建築家評議会（ARCASIA）委員会  
活動報告**



# ARCASIA 建築教育委員会 活動報告

ARCASIA Committee of Architecture Education (ACAE)

柳澤要

ACAE(ARCASIA Committee of Architecture Education)は、各国の大学の建築教育やインターンシップなどに関わる委員会である。なお議長は UAP (United Architects of the Philippines : フィリピン建築家協会) の Jonathan V. Manalad 氏である。

## 1. ACAE First Meeting

オンライン会議

**日時：** 2024.4.27 (土) 19:00～21:00 (日本時間)

**議題：** ACAE PROJECTS FOR 2024-2025

ARCASIA FORUM 2024 IN KANDALAMA, SRI LANKA

THESIS OF THE YEAR 2024

**参加者：** Jonathan Manalad(UAP／ACAE 議長)、柳澤要(JIA)、Umar Saeed(IAP)、  
Rattapong Angkasith(ASA)、Azli Jamil(PAM)、Arjun Basnet(SONA)、  
Md.Nawrose Fatemi(IAB)、Rajkunwar Nayak(IIA)、Teng Arcsu(KIRA)

**内容：** オンラインで今後の ACAE のプロジェクトやイベント (下記) の確認・審議を行なった。

### ・ ACAE ONLINE FORUM :

建築系の教員や学生にベストプラクティス、最新の教育方法などの情報共有をするために行う。各ゾーンが持ち回りで担当する。次回のフォーラムは“The AI-Integrated Architectural Education Forum (AIAEF)” webinar で、8/8 に IAP が主催して実施予定で、Umar Saeed 氏 (IAP) から説明があった。ラホール大学とも共同実施し、建築教育における人工知能 (AI) のあり方をテーマに議論。

### ・ THESIS OF THE YEAR 2024 :

フォーラム 22 についての確認があった。ただスリランカ (SLIA) の代表が参加していなかったため、詳細の報告はなかった。

### ・ ARCASIA FORUM 2024 IN KANDALAMA, SRI LANKA :

アルカジア学生論文賞の内容・スケジュールの確認があった。告知が 4/10、各協会への締切が 6/6、アルカジアへの提出が 7/27、授賞式が 9/26。なお審査基準は 1) Social Relevance、2) Innovation & Originality、3) Global Orientation、4) Presentation である。

## 2. ARCASIA ACAE 1st Online Forum for 2024

### “The AI-Integrated Architectural Education Forum (AIAEF)”

webinar（オンライン会議）

**日時：** 2024.8.8（木）18:00～20:00（日本時間）

**テーマ：** The AI-Integrated Architectural Education

**主催者：** パキスタン建築家協会（IAP／the Institute of Architects, Pakistan）、  
ARCASIA 建築教育委員会（ACAE）、ラホール大学（the University of Lahore）

**内容：** オンラインで建築教育における人工知能（AI）のあり方をテーマに議論がなされた。  
主に下記3つの内容に沿って議論がなされた。

1) AI 認知度の向上：

AI の建築教育や実務に革新をもたらす可能性について、建築家、教育者、政策立案者が  
認識を高めること。

2) 知識の共有：

AI の知識と経験の共有の促進、AI を統合した建築の分野におけるコラボレーションとイノ  
ベーションを強化すること。

3) 協力的な取り組み：

ARCASIA メンバー、教育機関および業界関係者間の建築教育における AI の統合を推進す  
るための協力的な取り組みを開始するきっかけとなること。

## 3. Forum 22 ARCASIA Committee on Architectural Education (ACAE)

### （第44回アルカシア教育委員会）

対面会議＋オンライン会議

**日時：** 2025.1.14（火）10:00～18:00

**場所：** 2BMICH / Bandaranaike Memorial International Conference Center, Colombo, Sri Lanka  
（コロンボ、スリランカ）

**参加者：** 各国建築家協会代表およびオブザーバ：バングラディシュ（IAB）、インド（IIA）、  
パキスタン（IAP）、スリランカ（SLIA）、ネパール（SONA）、ラオス（ALACE）、  
シンガポール（SIA）、インドネシア（IAI）、マレーシア（PAM）、ブータン（PUJA）、  
タイ（ASA）、フィリピン（UAP）、マカオ（AAM）、中国（ASC）、香港（HKIA）、  
日本（JIA）、韓国（KIRA）、モンゴル（UMA）

**内容：** 議長の Jonathan V. Manalad 氏の司会により委員会が始まった。

最初に各国代表の自己紹介を行った。加盟 22 カ国中参加した 15 カ国（IAB, IIA, IAP, SLIA, SONA, ALACE, SIA, IAI, PAM, PUJA, ASA, UAP, AAM, HKIA, JIA, KIRA, UMA）の代表から自己紹介があった。なお上記の内、オンライン参加は 3 カ国（ALACE, SIA, PUJA）であった。次に議長の Jonathan V. Manalad 氏から歓迎の挨拶、前回委員会のサマリー、今回の議題などの説明があった。続いて前議長の Adrianta Aziz 氏（PAM）から挨拶があった。会議の運営は SLIA（スリランカ建築家協会）である。

その後、各国の代表からのカントリーレポート（最近の建築教育に関わる状況報告・確認）があった。国によって報告内容に若干の差異はあったが、概ね共通なテーマ（組織体制、大学の建築教育への貢献、教育認定の概要、建築士資格の国際対応、研究・教育プログラム、講演会・セミナー、ワークショップ、国際会議・国際交流、研修、学生コンペ・ジャンボリー、出版、展示、将来計画など）についての紹介があった。JIA からは ACAE 報告書（建築教育の歴史の変遷、建築教育における JIA の役割、JIA 教育委員会メンバー、JIA による 2023～2024 の主要な建築教育プログラムの事例、JIA による学生コンペ、JIA による 2023～2024 の主要な出版・会議、近年の建築教育に関する重要な項目、その他の重要な項目）を配布したが、報告時間も限られていたので、特に JIA による最近の主要な建築教育プログラムの事例（オープンデスク、オープンスクール、大学院生のインターンシッププログラム、JIA 全国学生卒業設計コンクール）、JIA の 2023～2024 の主要な出版（JIA 建築年鑑など）、近年の建築教育に関する重要な項目（大学建築教育認証の変遷や JABEE のキャンベラ協定正式加盟、建築士法改正に関わる大学建築教育への影響など）の報告を行った。

昼食を挟んで午前（Zone A）・午後（Zone B・Zone C）で行われたカントリーレポートの後には、Nuno Soares 氏（AAM／マカオ建築家協会、前 ACAE 議長）による UNESCO-UIA VALIDATION SYSTEM（ユネスコ UIA の建築教育認定システム）の紹介、国広ジョージ氏（元アルカジア会長）による Archi Nexus Platform の紹介（国や言語を超えて建築知識・技術を世界中の個人や会社に提供するプラットフォーム）、Umar Saeed 氏（IAP／パキスタン建築家協会、次期 ACAE 議長）によるオンラインフォーラム（Responsible Integration of AI in Architectural Education and Practice）の紹介があった。

続いて ACAE の目標の確認（各国の ACAE の協力促進、ARCASIA の枠を超えた活動の展開、アジアの建築教育への貢献）、今後の活動・スケジュール確認（ACAE ONLINE FORUM、ACAE JOURNAL PUBLICATION、THESIS OF THE YEAR、DESIGN COMPETITION、UNIVERSAL DESIGN PROJECT）、2023～2024 年の活動実施状況の確認があった（ARCASIA THESIS OF THE YEAR 2024、The AI-Integrated Architectural Education Forum webinar、THE ACAE POSITION PAPER ON AI）。

最後に ACAE の活動の 5 つの主要分野（下記）の確認がなされ、閉会挨拶が Jonathan V. Manalad 氏によってあり終了した。

- 1) Training and Professional Development
- 2) Student Engagement and Activities
- 3) Collaboration and Networking
- 4) Curriculum Development and Best Practices
- 5) Innovative Practices and Approaches



スリランカ・コロンボで開催された ARCASIA Forum 22 での ACAE 委員会の出席者

# ARCASIA グリーン・サステナブル建築委員会 活動報告

ARCASIA Committee on Green and Sustainable Architecture (ACGSA)

新居照和

ACGSA の 1 年間の活動として、マレーシアとスリランカで行われた円卓会議（ラウンドテーブル）について報告する。

## 1. マレーシア ACGSA 報告

日 時：2024.7.4（木）

開催地：マレーシア クアラルンプール

テーマ：「建築における AI の統合とカーボンニュートラルリティ、持続可能な開発目標（SDGs）および環境・社会・ガバナンス（ESG）基準への適合」

### 1-1. はじめに

本報告は、2024 年 ACGSA のテーマ「建築における AI の統合とカーボンニュートラルリティ、SDGs および ESG 基準への適合」に関する議論をまとめたものです。AI 技術は、カーボン排出削減、エネルギー効率向上、資源循環において重要な役割を果たします。会議では、各国の事例をもとに、AI を活用した持続可能な建築の可能性が共有されました。

### 1-2. 世界の AI 活用動向と地域別のアプローチ

冒頭、元議長のデバトッシュ氏は、AI 技術がカーボンフットプリントの削減にどう貢献できるか、炭素排出量の予測やエネルギー生産・貯蔵の最適化を実現する可能性を説明しました。

参加国からは、AI 技術を活用した具体的な取り組みが紹介されました。以下はその一部です。

#### マレーシア：

AI を活用したカーボン計測アプリの開発により、エネルギー使用の最適化が進められています。

#### インド：

カーボン排出が動植物の移動パターンに与える影響を警告し、プラスチック削減とカーボン排出抑制を目指しています。

#### 中国：

AI 技術を使用して建物調査の効率化を図り、エネルギー効率の高い設計を推進しています。

#### **タイ/スリランカ：**

BIM や AI を使用し、建材のカーボンフットプリントを測定し、資源効率を高める取り組みを行っています。

#### **インドネシア：**

ゼロエネルギー建物の設計に AI を活用しています。

#### **ブルネイ：**

AI による予測を基に、既存の建物の改修を行い、カーボンニュートラルを実現しています。

#### **香港：**

ビッグデータと AI を駆使した廃棄物管理や資源最適化が進められ、モジュラー住宅や再利用可能な建物の推進が行われています。

これらの事例から、AI 技術が建物設計から運用、廃棄まで効率化と温室効果ガス削減に貢献することが確認されました

#### **今後の方向性**

- ・発展途上国での AI 技術教育とアクセス向上が鍵。
- ・技術格差の解消により、カーボンニュートラルな建築の普及を目指す。

#### **1-3. 提案された活動とアクションプラン**

以下の活動が提案されました：

##### **1. ACGSA ロードマップ書籍**

AI 活用によるカーボンニュートラリティ達成に向けたガイドラインの書籍出版。

##### **2. タスクフォース設置**

AI 技術を活用した持続可能な建築の推進。

##### **3. コンペティション開催**

- ・カーボンニュートラル建築デザインコンペ（学生と一般部門）。
- ・SDGs をテーマにした学生向けコミュニティパークデザインコンペ。

##### **4. 他委員会との協力**

知識とリソースの共有を進める。

##### **5. ウェビナー開催**

都市計画と建築認証システムに関するウェビナー。





ACGSA Round Table に集まった各国参加者



KL 会場の都市風景



マレーシア建築家協会の改修された建築

## 2. スリランカ ACGSA 報告

**日 時：**2025.1.14（火）

**開催地：**スリランカ コロンボ

**テーマ：**「AI イノベーションによるカーボンニュートリティ達成のための統合—  
カーボンキャプチャーおよび貯蔵技術の進展による持続可能な未来」

### 2-1.はじめに

2024 年 7 月に開催された KL 円卓会議で取り上げられた AI 技術に関するテーマを継承し、さらに発展的な議論が行われました。この会議は、カーボンニュートリティ達成に向けて、AI 技術が果たす役割を中心に議論が進められ、AI の活用による環境問題解決の具体的な進展と各国の事例が紹介されました。最初に歴代議長がこのテーマに対する課題を提示し、その後、アルカジアの役員が発言、続いて各国からのカントリーレポートを加えて、委員による発表が行われました。

## 2-2.発表の概要

### Tushar :

各国の強みを活かすことが重要であり、このテーマは非常に適切であると指摘しました。特に、AI を活用することで、国ごとの技術的な強みや地理的特性を反映した効率的なカーボンニュートラルリティの実現が可能であると強調しました。

### Acha :

このテーマは非常に難しいものであり、AI 技術を活用するには各国のデータベースが不可欠であると述べました。従来は試行錯誤によって進められていたプロセスが、AI の活用によって迅速に情報を得ることができるようになり、アジア全体でのカーボンニュートラルリティ達成を加速する期待が高まっています。

### Debatosh :

カーボンキャプチャーおよびストレージ（CCS）技術におけるリーダー国として、以下の三つの国が紹介されました：

- ・ シンガポール: AI による最適解の導入
- ・ 中国: 大規模プロジェクトと地質ツールの利用
- ・ インド: 革新的な技術の採用

### Arif :

AI 技術の効率化と最適化に対しては賛成しつつ、感情的な側面や社会的配慮を無視することへの警戒が必要だと指摘しました。エスノセントリズムやテクノセントリズム（技術中心主義）に対しては慎重であるべきだと述べました。

### Jahangir Khan :

AI ツールはあくまで人間の能力を補完するものであり、置き換えるべきではないと強調しました。AI の活用が人間の判断力や経験を補うことで、より有効に環境問題に対応できるとしています。

### Jayanta :

スリランカのグリーンビルディング協会が初めて建築家によって指導され、地元の工芸品 80 種を識別し、40 のグリーン製品が市場でより良い価格で販売されるという成功したプロジェクトを紹介しました。また、東部地域でのエコツーリズムに関する観光団体の小規模宿泊施設が環境への配慮を進めていることも報告されました。「建物を作ることよりも教育が重要」との立場が強調されました。

### Saifuddin :

アルカシアでの行動を決定する際には地域ごとの集会的な立場を取るべきだとし、地域のニーズを反映した方法を採用すべきだと述べました。単純な多数決ではなく、慎重な議論が必要だという意見がありました。



した。

### 2-3.各国の事例と慎重な意見

各国からは、AI 技術の導入に関するさまざまな進展と課題が報告されました。

#### マレーシア：

グリーンビルディング指数（GBI）に向けて、「環境最高責任者」のポストが設立され、AI 技術の導入が進められています。しかし、AI 技術の普及にはリソースや教育が不足しており、そのため慎重なアプローチが必要との意見が出されました。

#### シンガポール：

カーボンニュートラルリティを規範として導入するため、AI を駆使した全体的なアプローチが進められていますが、技術の導入に伴い、社会的な影響や公平性への配慮も必要だとされています。AI による最適解が全ての社会層に公平であるとは限らないリスクが指摘されました。

#### フィリピン：

5 月の RT および 10 月のオンラインイベントを通じて、アルゴリズムを使用した都市計画が進められていますが、AI 導入には高コストが伴い、特に地方の小規模企業やコミュニティに対しては教育と支援が必要との意見が出されました。

#### バングラデシュ：

AI のプロセスは高コストであり、リソースも多く必要としますが、その一方で環境データの解析やエネルギー管理において重要なツールとして活用されています。しかし、AI の導入が一部の層にアクセスしにくい問題があり、格差を縮小するための政策が必要だとの意見がありました。

#### タイ：

AI の導入はまだ初期段階にあり、リソースとデータツールの整備が優先されています。十分な研究とイノベーションがないことへの懸念があり、段階的に進めるべきだという意見が強調されました。

#### パキスタン：

持続可能な建物のために泥や竹を使用した建設技術が導入されていますが、AI 技術の普及とリソースの確保が課題であるとの指摘がありました。

#### インドネシア：

グリーンビルディングにおける AI の利用は限られており、インセンティブ不足が原因とされています。AI 導入には環境データとその解析能力が欠かせませんが、それを支援するための政策が不十分だとの意見がありました。

#### **香港：**

植生を通じたカーボンキャプチャーの進展において、植物インデックスが作成され、自然環境の保護が強化されています。しかし、AI 技術の環境負荷やコスト面でのリスクが慎重に指摘され、過度に依存しないようにするべきという警告がありました。

#### **インド：**

都市計画、ライフサイクルアセスメント、環境製品宣言などで AI が活用されていますが、急速な都市化の中で AI が解決できる問題は限られており、特に農村地域の電力供給問題に対するアプローチが必要との意見がありました。

#### **日本：**

高齢化社会や災害復旧に関する問題が取り上げられ、震災後の管理や復旧プロセスにおける AI 利用が強調されました。災害時における人間の判断力や対応力が軽視されるリスクに対する慎重さも求められ、AI の利用は少数コミュニティや文化の多様性を反映できるように活かすことの課題も言及しました。

#### **韓国：**

AI シミュレーションを使用した持続可能な建物管理が紹介されましたが、AI による過度な技術依存とその影響を避けるために慎重なアプローチが求められるとの意見がありました。

ブルネイ：資源管理の効率化に AI を活用していますが、特に石油とガス依存からの脱却に向けた慎重な転換が求められています。

#### **ネパール：**

AI、ドローン、持続可能な建設技術を組み合わせた低コストでエコフレンドリーな設計が進められていますが、AI 導入にはインフラと教育の整備が不十分であり、段階的に進めるべきとの慎重な意見も出ていました。

## **2-4.結論**

AI 技術はカーボンニュートラリティ達成に向けた強力なツールであり、多くの国でその活用が進められていますが、その利用には慎重なアプローチが不可欠です。データの公平性、倫理的配慮、技術格差の問題に対する対策が求められます。AI はあくまで補助的なツールであり、人間の判断力と共に活用されるべきであるという共通認識が共有されました。

## **2-5.今後の活動方針**

KL 円卓会議から継承された以下の項目について議論が行われ、今後の活動方針が確認されました：

1. 脱炭素社会へのガイドブック作成: ゾーン A、B、C でフレームワークを作成し、

脱炭素化に向けた具体的な指針を提供することが提案されました。

2. アイデアコンペの提案: ネパールからの紹介を受けて、アイデアコンペが提案されました。



ACGSA オンライン参加者と仲間達



ARCASIA 賞と環境建築の展示会場



ラムサール条約湿地に登録されたコロンボ中心地のベイラ湖

## ARCASIA 建築家の社会的責任委員会 活動報告

ARCASIA Committee on Social Responsibility (ACSR)

櫻井伸

2025 年 1 月 14 日からスリランカのコロンボで開催された ARCASIA FORUM 22 の ACSR（建築家の社会的責任）委員会に参加した。委員会には 18 か国の委員が参加した。

委員会の冒頭、「Charter on Social Responsibility 2024 Revision1（ACSR 憲章）」の策定に際しての経緯と内容説明があった。今回の改訂は 2015 年に発行された最初の憲章の改訂と位置付けられている。これまで ACSR で議論されてきた災害・孤立したコミュニティ・ユニバーサルデザイン等、多くの諸問題に対する建築家の責任についての提言が収められている。この憲章は 1 月 15、16 日に行われた理事会の中で承認され、今後、ARCASIA 加盟国の建築家協会にも幅広く共有が進められていく。

委員会では「Marginalized Community（疎外されたコミュニティ）」について参加各国から報告が行われた。内容は各国の置かれた状況により、災害復旧、過疎化、街区の老朽化、難民問題等、幅広い内容で行われた。JIA からは私が所属する久米設計で行った逗子の「旧本多邸」の改修について「建築家の保存への取り組みとコミュニティの参画」という視点で発表を行った。

委員会では「Universal Design/Wellness Design」についても議論を行う予定であったが、最初のトピックにおける議論が予定時間を大きく超え、次回の ACSR へ持ち越しとなった。



スリランカ・コロンボで開催された ARCASIA Forum 22 での ACSR 委員会の出席者



ARCASIA

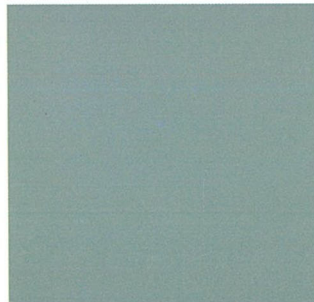
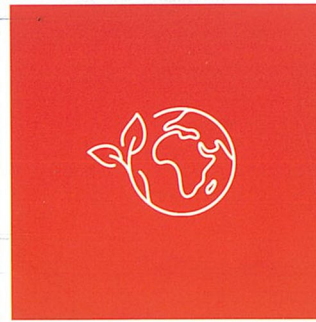
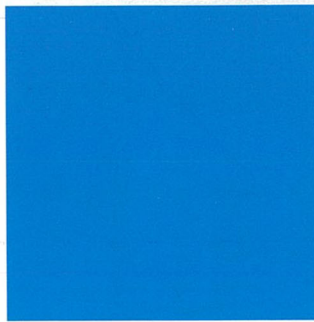
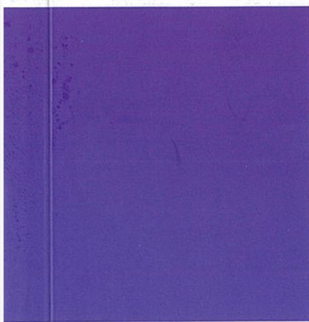
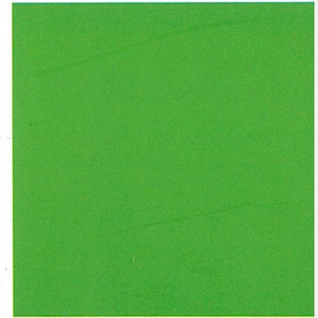
# CHARTER ON SOCIAL RESPONSIBILITY

November 2015

November 2024 - Revision 1



Promoting ethical and  
sustainable architectural  
practices





# VI

## アメリカ建築家協会(AIA)大会 参加報告

—JIA MAGAZINE Vol.427 の掲載記事を抜粋—

アメリカ・ワシントン DC

2024.6.6～6.8

## アメリカ建築家協会 (AIA) ・大会参加報告

2024年6月6日～6月8日 アメリカ・ワシントン

竹馬大二 (JIA 国際委員長)



JIAとAIAは1989年に職能に関する協定 (Accord on Professionalism) を締結し、以来、大会への相互参加や2国間協議などさまざまな活動をしている。AIAは毎年6月に大会を開催し、そのコンテンツは、150以上に及ぶセミナーやワークショップ、各賞の授賞式、作品展示、建材展、建築ツアーなどである。また、大会に合わせて協定締結国との International Presidents' Forumと2国間会議が行われる。ワシントンで開催されたAIA 2024に、JIAからは佐藤会長と筆者が6月6日から8日まで参加したので報告する。大会参加者：佐藤尚巳 (JIA 会長)、竹馬大二 (JIA 国際委員長)

## ● International Presidents' Forum (IPF)

当会議はAIAと提携関係にある14団体の会長等が参加してさまざまなテーマについてグループディスカッションを行うものである。今年度のIPFでは、チーフアーキテクト制度について議論が行われた。筆者は議論に参加できなかったのですが、AIAが推進しているチーフアーキテクトについて、その取り組みを、以下に紹介させていただく。



(上) IPFの参加者集合写真 (中央がAIA会長とJIA佐藤会長)  
(右) IPFにてEmily前AIA会長にJIAの名誉会員メダルを授与



建築家は問題解決の専門家として訓練されており、建築環境に存在するさまざまな問題に対して効果的な解決策を提供する独自の能力を備えている。現代の都市は気候変動、手頃な価格の住宅、治安、健康格差といった複雑な課題に直面しており、これらの問題を解決するためには、強力なリーダーシップと多部門とのパートナーシップ、学際的なアプローチが必要である。建築家はその専門知識を生かして、これらの課題に対する解決策を提供できる。

米国建築家協会 (AIA) は、地方自治体に建築家を加えるよう呼びかけており、特に「チーフ・アーキテクト」制度の復活が重要であると認識している。チーフ・アーキテクトは、専門知識が不足している地方の首長や市政担当者に対する重要なアドバイザーとしての役割を担うものであり、かつて多くの都市で設置されていたが、現在では米国の数都市にしか存在していない。AIAカリフォルニア支部は、「市民アーキテクト」として建築家の意見が建築環境に影響を与える決定において不可欠であると提言している。多くの都市ではすでに計画、ゾーニング、建築、経済開発部門に建築家が関与しているが、チーフ・アーキテクトの役割を設けることで、建築家の知識をさらに活用し、個々の建物を超えた問題に対する持続可能な解決策を深く掘り下げることができると考えられている。

AIAは数年にわたり米国市長会議と提携し、地域リーダーとの関係を強化し、市民レベルでの建築家の役割を高めてきた。チーフ・アーキテクト・イニシアチブを推進するためには、各都市固有の問題に応じたアプローチが必要であり、地方レベルでの取り組みが求められる。そのためAIAは地方支部や会員が首長と協力し、チーフ・アーキテクトを制度化することをサポートしている。

(出典：AIAホームページ)

## ● AIA Awards Gala

AIAの各賞を祝う Gala Partyに出席した。建築作品に贈られる賞は9つのカテゴリー (優秀作品、サステナブル建築、文教施設、医療施設、住宅、インテリア、小規模建築、都市デザイン、25年賞) に分かれており、それらが順に紹介・表彰された。

AIA25年賞は佐藤会長が担当された「東京国際フォーラム」が選ばれ、JIA25年賞とのダブル受賞となった。

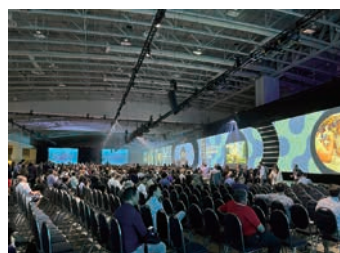


AIA Awards Galaの会場

## ● Keynote Speech

会期中に3名の基調講演が行われた。毎年のものであるが、非建築家の「時の人」が登壇し、多様で興味深い講話が実施された。

1人目はArthur C. Brooks ハーバード大学教授で、「幸福とは何か？」を科学的に検証する話であった。2人目は脳神経外科医のDr. Sanjay Guptaで医療インフラやデザインと健康について話された。そして3人目はハリウッドのコスチュームデザイナーのRuth Carter氏でBlack Pantherなど彼女の衣装デザイン作品誕生の逸話を聞かせていただいた。



Keynote Speech会場

## ● JIA-AIA 会議

本来は2国間協定に関連して協議を行う場であるが、最近では互いの近況の報告にとどまっている。会議後に佐藤会長より、協定書4条の「相互協力 (教育・試験・登録および継続教育の基準の相互承認の実現)」と5条の「行動計画」について今後の方針を

JIA内で協議すべきとのタスクを指示された。相互認証に関わる問題はJIAの国際活動の根幹をなすものであるが、2025年が協定書の更新年になるので、歴代の国際委員長にもご協力をいただいて協議をさせていただきたい。

## ● AIA25

来年はボストンで大会が開催される (2025年6月4日～6月7日)。JIAの会員で参加を希望される方は、本部の国際委員会事務局までご一報ください。登録方法などをお知らせいたします。



JIA-AIA会議でKimberly会長とのツーショット

## VII

# タイ王立建築家協会（ASA）大会 参加報告

—JIA MAGAZINE Vol.426 の掲載記事を抜粋—

タイ・バンコク

2024.4.30～5.2

## タイ王立建築家協会 (ASA) ・大会参加報告

2024年4月30日～5月2日 タイ・バンコク

竹馬大二 (JIA国際委員長)



JIAとASAは1993年にMOU(相互協力協定)を結び、以来、互いの大会への参加、視察団の派遣、若手建築家の交流などさまざまな活動をしている。ASAは毎年タイ国の正月明けの4月後半にASA Expo(展示会兼建材展)と大会とを同時開催しており、それに合わせて協定締結国との交流イベントが行われている。今年の大会テーマは“**Collective Language**”でアジアのさまざまな国を大会に招待して国際色豊かなイベントが開催された。JIAからは佐藤会長と筆者が4月30日から5月2日まで参加したので報告する。

大会参加者：佐藤尚巳(JIA会長)、竹馬大二(JIA国際委員長)

## ● Presidential Forum

JIAの建築大会同様にASAも協定締結国の建築家協会会長を招待してPresidential Forum(会長会議)を開催した。ただし、日本に比べると大変盛大で東南アジア、南アジアを中心に15カ国から18団体が招かれ、事前に質問があった下記項目について、各会長が発表を行った。

Q1: What are the difficulties that the young architects are facing in your country(あなたの国で若い建築家が直面している困難は何ですか)?

Q2: How does your institute provide the support for young architects(貴協会では若手建築家をどのようにサポートしていますか)?

詳細は省略するが、給料が安いこと、デベロッパー等への転職が多いこと、協会に所属しない若手が多いこと等、我が国と



Presidential Forum集合写真

似たような状況が共有された。また、コンペや表彰による若手のプロモーションの他に、次世代建築家委員会を協会内に設け若手が自主的に活動を行う場を設けているところもあった。

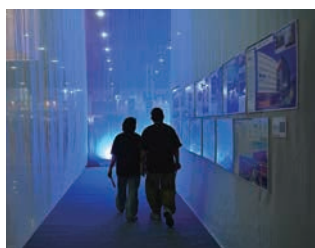
## ● ASA Expo 24

会場では「Ritual: 祈り」「Shading: 影」「Humanity: 人間性」という3つのテーマを体現する作品を参加国が持ち寄り展示を行うという企画が行われた。国際委員会ではRitualを「狭山の森礼拝堂」(㈱NAP建築設計事務所)、Shadingを「GOOD CYCLE BUILDING 001 浅沼組名古屋支店改修PJ」(㈱川島範久建築設計事務所)、Humanityを「52間の縁側」(㈱山崎健太郎デザインワークショップ)をそれぞれ選出した。会場の照明効果もあって幻想的な展示であったが、アジアの建築家のさまざまな作品が一堂に会した見応えのあるものであった。

他にも、筆者が参加した若手建築家のアイデアコンペ、ASA



日本からも出展した企画展示の様子



の建築各賞の受賞作品、インテリアやランドスケープ協会の受賞作品、ASA会員による作品など、大変規模の大きい展示が行われた。なお、この展示会は無料で一般市民にも開放されており、20万人規模の入場者があるということなので、建築やデザインを広く市民にプロモートするという点で非常に高い効果があると思われる。また、建材展(こちらは10万㎡規模!)も併設され、こちらも大変な盛況であった。



ASA Expo 2024 展示会場

## ● その他のイベント

## ● JIA-ASA会議

大会の合間をぬって毎年行われるのが会長同士で2国間交流について協議を行うJIA-ASA会議である。今回はASAから日本の土地区画整理事業やTOD開発の手法を紹介



JIA-ASA会議(チャナ・サンパランASA会長と)

してほしいとリクエストがあった。後日、講演会のようなものをバンコクで催すので、講師を紹介してほしいと要望を賜ったので、国際委員会で協議しているところである(2024年7月現在)。JIAからは11月の別府の建築家大会への招待を行い、今後も継続して交流をしていくことが確認された。

## ● ASA Experimental Design Competition

ASAが主催する若手建築家と建築学科の学生を対象にしたアイデアコンペが行われ、筆者はその審査員として招聘された。このコンペは、場所や規模にとらわれない創造的なソリューションとデザインの提案を求めたもので、バンコクをケーススタディとして、参加者が都市生活者の感覚的な体験を通して、変化し続ける人々のニーズに応えるデザインソリューションを見つけることが奨励された。エントリーは合計約300あり、この中から優秀賞6作品と佳作とファイナリスト18作品が選定され会場で表彰式と展示が行われた。

ASA Experimental Design Competition 2024 表彰式  
受賞者の左隣が審査員を務めた竹馬国際委員長

# VIII

## 韓国建築家協会（KIA）大会 参加報告

韓国・水原

2024.11.26～30



# KIA International Architecture Festival 2024 & Exhibition

韓国・水原

小西彦仁

## ■概要

**開催地：** 韓国・水原（スオン） Gyeonggi-do  
**期 間：** 2024 年 11 月 25 日（月）～27 日（水）  
**参加者：** 小西彦仁（JIA 副会長・北海道支部長）  
**テーマ：** Culture, Heritage, Today & Tomorrow  
**スケジュール：**

11 月 25 日	17:50～20:00	ウエルカムディナー
	20:30～21:00	展示場視察
11 月 26 日	10:10～12:00	ヘリテージツアー
	12:00～13:00	ランチ
	13:00～16:00	基調講演
	16:00～18:00	式典・名誉会員授与式
	18:00～20:00	ディナー
	20:15～21:30	二次会
11 月 27 日		別府での建築家大会のため帰国

## ■参加報告

韓国スオン市（ソウルから南に 35km）で開催された KIA(韓国建築家協会)の建築家大会に佐藤会長の代理として招待を受け出席いたしました。会場はスオン市のコンベンションセンターで大ホールを会場にホールの半分を韓国の学生作品及び建築家作品の展示ホールとして、半分を式典会場としてのセッティングであった。今年の大会テーマは Culture, Heritage, Today & Tomorrow。

26 日午前中は世界遺産にもなっている水原華城を招待国の会長や副会長の皆さんと視察した。午後から式典となり各国の来賓と KIA 役員の登壇によるテープカットセレモニー（私も登壇）続いて基調講演が行われ韓国ソウルの都市計画の変遷の話がされた（建設省関係者）。ついで 2 部でウルグアイの建築家 Gustavo 氏の作品 2 点が発表された。続いてアフリカの建築家が Toguna 建築という民族空間を紹介しそのアイディアをベースにした自作を紹介した。講演終了後、式典が開催され HAN, Young Keun KIA 会長、スオン市長、等の挨拶があり、その後名誉会員授与式が行われた。式典終了後は各国来賓と KIA メンバーによる食事会が開かれた。KIA 会員は 6 千数百名とのことで、JIA の約倍の会員数であるとのこと。会場の作品展示は洗練されており、また式典も格式ばらずセンスが良いと感じた。

最後に AIA 会長の Kimberly さんがウエルカムディナー後急遽帰国となり残念であった。  
また、佐藤会長の各国会長との親交も肌で感じた。



大会フライヤー



Han Youngkeun KIA 会長





建築の展示の様子



各国の来賓とともに展示を視察



会場の様子



AIA 会長（中央）、UIA 前会長（中央右）、AIA International 次期会長（右）



Han Youngkeun KIA 会長（左）と小西 JIA 副会長



各国の来賓たち

**IX**

**JIA 建築家大会 2024 別府**  
**International Presidents' Forum**  
**開催報告**

大分・別府

2024.11.29

# International Presidents' Forum

水本浩二

JIA 建築家大会で例年開催される IPF (International Presidents' Forum) は、JIA の提携協会である AIA (アメリカ建築家協会)、ASA (タイ王立建築家協会)、KIRA (大韓建築士協会)、KIA (韓国建築家協会) 及び関係協会の会長・代表者を招いてパネルディスカッション等を行う国際交流イベントである。

別府大会の IPF では提携四団体に加え、ARCASIA (アジア建築家評議会)、SIA (シンガポール建築家協会)、AIA Japan (アメリカ建築家協会日本支部) から会長を招待し、「建築家の調達方法」をテーマに各国公共建築における建築家の選定方法や関連する法律等に関するプレゼンテーションや意見交換が行われた。

各協会の登壇者から最低価格入札を禁止・制限する規制や、環境および歴史保存ポリシーの維持、地域コミュニティへの関与を求める事例等、日本国内においても参考になる制度の紹介がなされた。

今回は会議テーマが実務・事務的であり、建築を紹介するビジュアルがほとんどないイベントであるにも関わらず、国際委員会関係者以外の会員の方々にも聴講いただき、今後私たちが取り組むべき課題に対する関心の高さを伺うことができた。

海外からのゲスト対応として IPF のほか、開催地ならではの「別府温泉地獄めぐりミニツアー」を企画し、九州別府の方々がどのようにして火山と地熱のエネルギーを活用し豊かな生活に変換しているのか、知恵と工夫を体感いただけたのではないかと考えている。最後に、大会運営ならびに参加協力いただいた全ての方々に深く感謝を申し上げます。

## ■概要

**日 時：** 2024 年 11 月 29 日 (金) 10:00-11:30 JST (日本時間)

**会 場：** ビーコンプラザ 3F 小会議室 31 (大分県別府市)

**テーマ：** “How Architects Should Be Procured”

**登壇者：** Ar. Saifuddin AHMAD, ARCASIA President

Ar. Lakisha WOODS, AIA CEO

Ar. Asae SUKHYANGA, ASA President

Ar. KIM Jaerok, KIRA President

Ar. KANG Chul Hee, KIA Honorary President

Ar. Melvin TAN, SIA President

Ar. SATO Naomi, JIA President

**モデレーター：** Ar. CHIKUBA Daiji, Chairperson, International Relations Committee, JIA

**言 語：** 英語





ARCASIA 会長  
AHMAD  
Saifuddin



AIA CEO  
WOODS  
Lakisha



ASA 会長  
SUKHYANGA  
Asae



KIRA 会長  
KIM Jaerok



KIA 名誉会長  
KANG  
Chul Hee



SIA 会長  
TAN Melvin



AIA Japan 会長  
YAMADA  
Yumiko



JIA 会長  
佐藤尚巳

Photo: Takashi Homma



会場のビーコンプラザ



集合写真



会場の様子



会場の様子



Ar. Saifuddin AHMAD, ARCASIA President



Ar. Lakisha WOODS, AIA CEO





Ar. Asae SUKHYANGA, ASA President



Ar. KIM Jaerok, KIRA President



Ar. KANG Chul Hee, KIA Honorary President



Ar. Melvin TAN, SIA President



佐藤尚巳 JIA 会長



竹馬大二国際委員長

次ページより、当日のアジェンダと各団体の発表資料を掲載する。



## International Presidents' Forum

JIA CONVENTION 2024 BEPPU  
10:00-12:00, Friday, November 29, 2024  
B-CON PLAZA

### Speakers:

ARCASIA President AHMAD Saifuddin  
AIA CEO WOODS Lakisha  
ASA President SUKHYANGA Asae  
KIRA President KIM Jaerok  
KIA Honorary President KANG Chul-Hee  
SIA President TAN Melvin  
JIA President SATO Naomi

### Moderator:

Ar. CHIKUBA Daiji, Chair, International Relations Committee, JIA

### Theme: "How Architects Should Be Procured"

#### Questions:

- 1-1. In your country, is the selection of an architect for a public building determined solely by the lowest bid?
- 1-2. If architects are selected solely on the basis of low design fees, please let us know to what extent this is customary in your country.
- 2-1. Are there any laws in your country regarding the selection of architects for public buildings?
- 2-2. Please provide the name of the law, if any, and the year it was enacted.
- 3-1. Please provide any additional explanations you can provide regarding the selection of designers for public buildings in addition to the answers above. For example, provision of opportunities for young architects, movements to improve procurement of architects, or how to set up standards of selection of architects.

### Timetable:

10:00 Welcome remarks by JIA President SATO Naomi (5 min)

10:05 Presentation (7 min each)

1. ARCASIA President AHMAD Saifuddin
2. AIA CEO WOODS Lakisha
3. ASA President SUKHYANGA Asae
4. KIRA President KIM Jaerok
5. KIA Honorary President KANG Chul-Hee
6. SIA President TAN Melvin
7. JIA President SATO Naomi

11:00 Discussion (30 min)

11:30 Photo Session and move to lunch venue

# PROCUREMENT FOR CONSULTANT SELECTION



INTERNATIONAL PRESIDENTS' FORUM  
JIA CONVENTION 2024 BEPPU  
NOV 29 2024  
SAIFUDDIN AHMAD  
ARCASIA PRESIDENT

## TYPES OF PROCUREMENT

1)  
DIRECT APPOINTMENT

2)  
OPEN TENDER

3)  
OPEN TENDER  
(PRE-QUALIFICATION)

## LIMIT OF PROJECT VALUE FOR EACH TYPE

1)  
DIRECT APPOINTMENT  
RM50 MILLION & BELOW

2)  
OPEN TENDER  
RM50 MILLION & ABOVE

3)  
OPEN TENDER  
(PRE-QUALIFICATION)  
RM50 MILLION & ABOVE

## CRITERIAS & REASONS FOR TYPES OF PROCUREMENT

### 1) DIRECT APPOINTMENT

- URGENT NEED TO START PROJECT
- NOT MORE THAN CEILING VALUE
- SHORT PROCESS & SIMPLISTIC METHOD.
- FEES NEGOTIABLE BUT NOT MORE THAN CEILING VALUE.

## CRITERIAS & REASONS FOR TYPES OF PROCUREMENT

### 2) OPEN TENDER

- WITHIN ALLOCATED VALUE.
- ALLOWS MORE PARTICIPATION.
- LONGER PROCESS BUT MANAGABLE.
- FEES MAYBE NON-NEGOTIABLE.

## CRITERIAS & REASONS FOR TYPES OF PROCUREMENT

### 2) OPEN TENDER (PRE-QUALIFICATION)

- WITHIN ALLOCATED VALUE.
- PROJECT OF HIGH COMPLEXITY.
- BIG NUMBER OF TENDERERS EXPECTED .
- STAGE PROCESS.
- CONCEPTUAL DESIGN IS REQUIRED LATER.
- MUCH LONGER PROCESS TO ALLOW SUBMISSION IN STAGES.
- FEES MAYBE NON-NEGOTIABLE.



## QUALIFY FOR PARTICIPATION

- CONSULTANT NEED TO BE PRE-REGISTERED WITH RELEVANT AGENCIES, EG: MINISTRY OF FINANCE, MINISTRY OF WORKS, ETC.

## SUBMITTALS (TECHNICAL & COMMERCIAL ASSESSMENT)

### TECHNICAL CRITERIAS

1. FIRM OR COMPANY SIZE & MAKE-UP.
2. STAFF CV & INVOLVEMENT.
3. WORK METHODOLOGY.
4. WORK PROGRAMME & MILESTONES.
5. STAFFS CAPACITY & QUALIFICATIONS.
6. PAST EXPERIENCES OF SIMILAR PROJECTS.
7. FIRM OR COMPANY CAPABILITIES & CURRENT ON-GOING JOBS.
8. CONCEPTUAL DESIGN OR PRESENTATION.

## SUBMITTALS (TECHNICAL & COMMERCIAL ASSESSMENT)

### COMMERCIAL CRITERIAS

1. FIRM OR COMPANY'S FINANCIAL STANDING & AUDITED ACCOUNTS.
2. QUOTATION OF CONSULTANCY FEES
  - SCOPE OF BASIC SERVICES (EG: SCALE OF MINIMUM FEES)
  - ADDITIONAL SERVICES
  - SITE SUPERVISION (PROFESSIONAL & SEMI-PROFESSIONAL)
  - REIMBURSEMENTS

## ASSESSMENT OF TENDER

- DIFFERENT CRITERIA CARRIES DIFFERENT WEIGHTAGE.
- POINTS GIVEN BASE ON WEIGHTAGE,  
EG: PAST EXPERIENCE ON SIMILAR PROJECTS CARRIES MORE  
WEIGHTAGE IF TENDER LOOKING FOR SPECIALISED PROJECTS.

## CONSULTANT REGISTRATION

- TO QUALIFY FOR PARTICIPATION, CONSULTANTS NEED TO  
BE PRE-REGISTERED WITH RELEVANT AGENCIES  
(MINISTRY OF FINANCE, MINISTRY OF WORKS, ETC)

A photograph of a large audience seated in a dark hall, facing a stage. The stage features a large screen displaying the AIA logo and a cityscape. The text "Lakisha Ann Woods, CAE" and "AIA EVP/Chief Executive Officer" is overlaid in white.

# Lakisha Ann Woods, CAE AIA EVP/Chief Executive Officer

A photograph of a set of wide, light-colored stone steps leading up to a row of classical columns.

## The Brooks Act

- Or, the Selection of Architects and Engineers statute
- Passed by Congress in 1972
- Established Qualifications Based Selection/QBS

A photograph of the General Services Administration building, showing the words "GENERAL SERVICES ADMINISTRATION" carved into the stone facade.

## Design Excellence Program

- 1992 General Services Administration
- “Guiding Principles for Federal Architecture”
- Not a style mandate





## Guiding Principles

- Ensuring value for taxpayers
- Developing safe and attractive workplaces
- Achieving building performance
- Upholding environmental and historic preservation policies
- Involving the community
- Collaborating with skilled professionals

Flickr: Ken Lund



## Chief Architect

- Cities are at the forefront of complex challenges
- Meet local needs and unique context



Thank you.

AIA





## International Presidents' Forum 2024












# Discussion for JIA's International Presidents' Forum 2024

Prepared by The Association of Siamese Architects  
under Royal Patronage (ASA)







1

Theme: "How Architects Should Be Procured"

01

**Q1.1: In your country, is the selection of an architect for a public building determined solely by the lowest bid?**

- According to the Architects Act 2000, architects are prohibited from engaging in lowest-price bidding for both private and government building projects. The process differs for private and public sectors:
- Private Sector:
  1. Project owners typically invite 1-3 architects or firms to present their performance.
  2. Owners then negotiate fees individually with architects.
  3. Selection is based on performance or lower fees.
  4. During fee negotiation, architects should inform owners about the ASA Standard of Practice 1989.
- Government Sector:
  1. Follows the GPSM Act 2017, specifically Section 8.
  2. This section covers hiring for architectural design and supervision.
- The key point is that architects are not allowed to compete solely on price, and there are specific procedures in place for both private and government projects to ensure fair selection based on performance and negotiated fees.



Discussion for JIA's International Presidents' Forum 2024


2

## Public building tendering

Government Gazette, Volume 134 Special Part  
210 D, August 23, 2017

### Government procurement regulations

**Clause 38:**

- Multiple lowest bids: Select the first tenderer who submitted the lowest price.
- Single bidder: Can be accepted if the price is appropriate and beneficial to the State agency, subject to approval by the agency head.

**Clause 39**

- When the lowest bid exceeds the cost estimate for procurement under Clause 22, Officer negotiates with the lowest bidder via e-market system.
- If bidder agrees to reduce price: New price doesn't exceed cost estimate, or new price exceeds estimate by no more than 20%. → Proceed with this bidder
- If bidder doesn't agree to reduce price: Price exceeds estimate by no more than 10% and price is deemed appropriate. → Proceed with this bidder
- If lowest bidder doesn't meet price or specification conditions, bidders is non-compliant. Officer can Cancel procurement, or Award to second-lowest bidder

3

# Public building

Definition by Ministerial Regulation No.4  
Issued in 1997, amended by MR18 in 1987;  
Clause 1

**“Public building” means the building which are utilized for people’s congregation for**

- government services,
- politics,
- education,
- religion,
- society,
- entertainment or
- commerce

such as - theaters, - convention halls, - hotel, - hospital, - educational premises, - library, - outdoor sports field, - shopping center (suung-kaan-khae), - indoor sports field, - market (talaat), - department store (haeng-sappa-sinkhae), - car parking building, - vehicle station, - dock, - entertain premises, - airport, - tunnel, - bridge, - landing pontoon, - cemetery, - crematorium, - religious premises.



Theme: “How Architects Should Be Procured”

02

Q1.2: If architects are selected solely on the basis of low design fees, please let us know to what extent this is customary in your country.

- The Association of Siamese Architects, or ASA, has established a minimum fee structure outlined in the ASA Standard of Practice 1989. This document serves as a reference for architects when determining their fees.
- However, recognizing the evolving nature of architectural practice and related bylaws, the ASA is planning to review and update this standard. This review will include a reassessment of the minimum fee structure to ensure it aligns with current industry conditions and practices.
- This indicates that while there is an existing standard for fees, the organization is aware of the need to keep these guidelines current and relevant to today’s architectural landscape.

Theme: “How Architects Should Be Procured”

03

Q2.1: Are there any laws in your country regarding the selection of architects for public buildings?

Government Gazette, Volume 134 Special  
Part 210 D, August 23, 2017

## Chapter 4 Design or Construction Work Supervision

### Clause 134

- Individual providers:
  - Must be Thai citizens
  - Must have a professional license in architecture or engineering as required by law
- Juristic person (company) providers:
  - Managing director or managing partner must be a Thai citizen
  - Over 50% of the company’s capital must be held by Thai shareholders

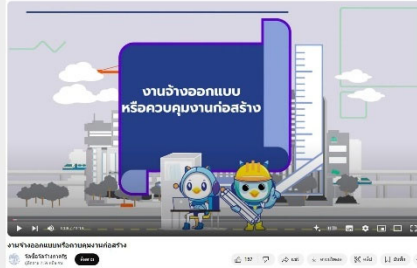
### Clause 155:

- Step 1 design concept competition
- Step 2 design competition

04

**Q2.2: Please provide the name of the law, if any, and the year it was enacted.**

- Government Procurement and Supplies Management Act 2017
- See attached Thai explanation video  
<https://youtu.be/8H3qTb0RKpE/si=or1YXaeUraZxDhEV>



05

**Q3.1: Please provide any additional explanations you can provide regarding the selection of designers for public buildings in addition to the answers above. For example, provision of opportunities for young architects, movements to improve procurement of architects, or how to set up standards of selection of architects.**

- The selection of architects for government projects in Thailand, specifically for public buildings, is governed by:
  1. Section 8 of the GPSM Act 2017
  2. Architect Act 2000
  3. Ministerial Regulation on Provision of Design or Construction Supervision Fee Services 2019
- Architects must be registered as either personal architects or architect firms with the Architect Council of Thailand.
- While the regulations allow for personal architects to participate in project proposals, government agencies typically prefer architect firms (registered as companies) over individual architects.
- Despite provisions for personal architects to compete, this criterion is rarely, if ever, applied by government agencies in practice.
- The GPSM Act 2017, in effect for over 7 years, is due for review and revision, especially regarding architect selection.
- ASA will consult with ACT on these revisions, with a focus on promoting design competitions for personal architect selection.
- A Tri-Co alliance (ASA, ACT, and CDAST) plans to draft new standards for design competitions and architect selection soon.

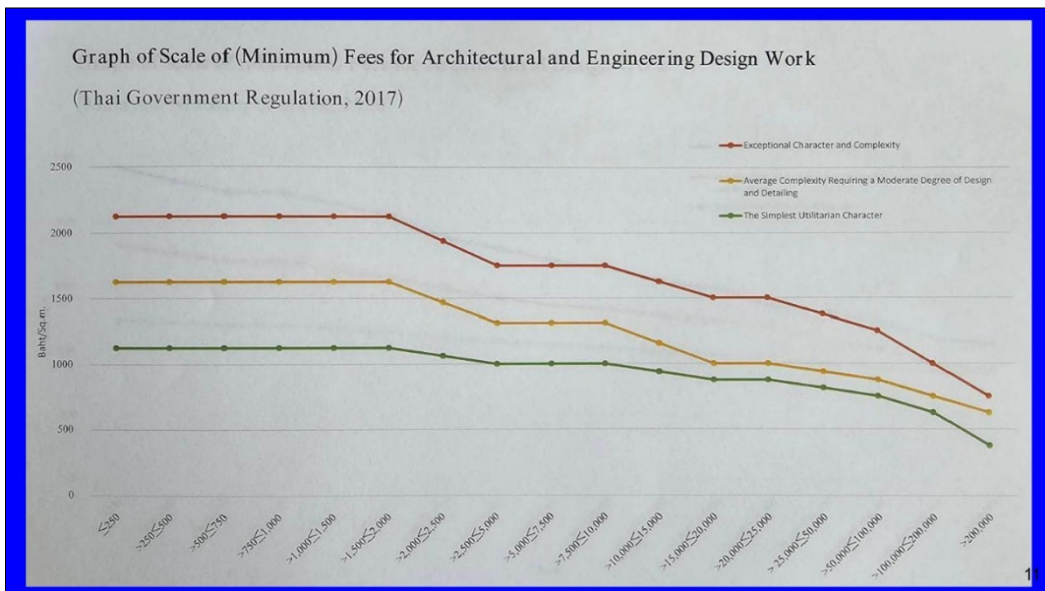
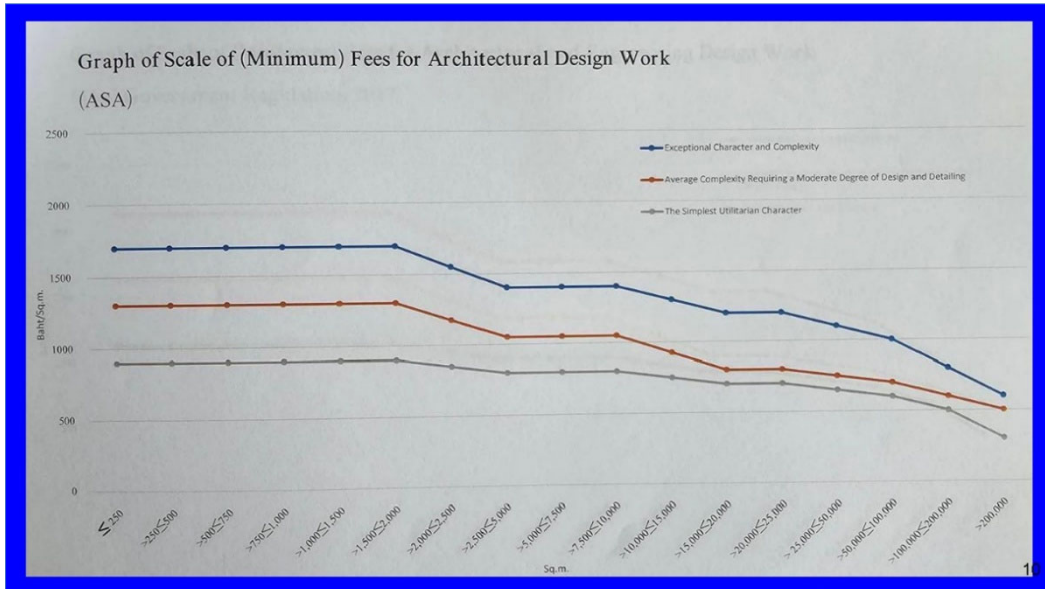


## Guideline for Architecture Professional Fee in Thailand

This guideline to help professional positioning in broader efficient aspects for the project management. However, this chapter is informative for client and project owner to get a better understanding about architect's role and scope of work for any construction project.









# Architecture Professional Fee in Thailand

## 2 Source to references:

### 1. THE STANDARDS OF ARCHITECTURAL ETHICAL PRACTICE CONCERNING THE PROFESSIONAL SERVICES AND COMPENSATIONS 1983

by The Association of Siamese Architects under Royal Patronage (ASA)  
Appendix F: Standards of Professional Practice in Architecture B.E. 2532 (1989)

- Section 3: Professional Practice in Architecture

หนังสือ คู่มือสถาปนิก 2547

ภาคผนวก จ: มาตรฐานการปฏิบัติงานวิชาชีพสถาปัตยกรรม พ.ศ. 2532

### 2. Ministerial Regulation: Determination of Professional Fee for Construction Designer or Supervisor Act B.E. 2562 (2019)

Pages 1 - 6 /Royal Gazette /Volume 136/ Section 85 A/15 July 2019

หน้า 1 - 6 /ราชกิจจานุเบกษา เล่ม ๑๓๖ ตอนที่ ๔๕ ก ๑๕ กรกฎาคม ๒๕๖๒

13

## Where fee is tabulated from?

### A. Percentage by Construction Cost

Basic Services is based on the percentage of the construction cost of the project by computing from TABLE "BASIC COMPENSATION FOR PROFESSIONAL SERVICES"

### B. Amount of Service Manhour

Where "Percentage of Construction Cost" is not applicable, compute the fee from the Basic Salaries of personnels engaged in the Project



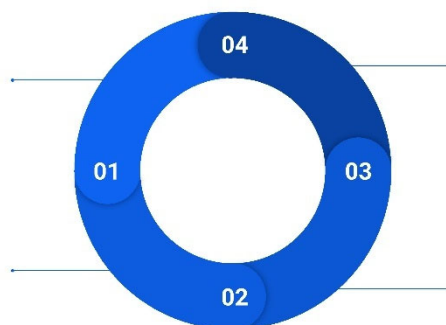
14

## A. Percentage of Project Construction Cost

With this method, compensation for Basic Services is based on the percentage of the construction cost of the project by computing from TABLE of "BASIC COMPENSATION FOR PROFESSIONAL SERVICES". Compensation shall be computed as follows :-

**1. General Construction Work**  
Compensation for architectural services shall be computed progressively

**2. Extensions or Additions Works**  
Compensation shall be 1.2 times of compensation computed in from the General Construction Work



### 4. Construction of Repetitive Nature

For construction of repetitive units on the same premises and new drawings are not required, compensation shall be computed as follows :-

- The 1st Unit, compensation shall be 100% of the total compensation
- The 2nd Unit, compensation shall be 50% of the General Construction Work
- The 3rd - 5th Unit, compensation shall be 25% of the General Construction Work for each unit
- The 6th - 10th Unit, compensation shall be 20% of the General Construction Work for each unit
- From the 11th Unit onwards, compensation shall be 15% of the General Construction Work

### 3. Restorations, Rehabilitations, Alterations

Compensation shall be 1.4 times of compensation computed the General Construction Work.

15

## Basic Compensation For Professional Services In Thailand

BUILDING TYPE CATEGORIES	Professional Services Fee Percentage (%)						
	Not exceeding 10,000,000 THB	10,000,000 to 30,000,000 THB	30,000,000 to 50,000,000 THB	50,000,000 to 100,000,000 THB	100,000,000 to 200,000,000 THB	200,000,000 to 500,000,000 THB	over 500,000,000 THB
<b>GROUP 1</b> Interior Design, Design of Architectural Products and Furniture	10.00	7.75	6.50	6.00	5.25	4.50	3.70
<b>GROUP 2</b> Museums, Monuments, Monumental Buildings, Religious Facilities (Temples, Churches, Shrines etc.)	8.50	6.75	5.75	5.50	4.75	4.25	3.60
<b>GROUP 3</b> Residential Buildings	7.50	6.00	5.25	-	-	-	-
<b>GROUP 4</b> Medical Facilities, Laboratories, Parliament* House, Colleges, Universities, Libraries, Hotels, Motels, Banks, Condominium, Cinemas, Indoor Stadium	6.50	5.50	4.75	4.50	4.25	3.75	3.40
<b>GROUP 5</b> Offices, Commercial Complexes, Corrective Institutions, Dormitories, Schools, Industrial Plants, Garages	5.50	4.75	4.50	4.25	4.00	3.50	3.30
<b>GROUP 6</b> Stadium, Warehouses, Parking Garages, Row Houses, Market etc.	4.50	4.25	4.00	3.75	3.50	3.25	3.20

16

**Basic compensation for architectural services shall be computed progressively** from the percentage indicated in "BASIC COMPENSATION FOR PROFESSIONAL SERVICES" Table.

**Building Type Cat. Group IV, the Project Construction Cost is 35 mil. Bahts, compensation shall be computed as follows**

01	The first 10 million Baht	• 650,000 Baht
02	The next 20 million Baht	• 1,000,000 Baht
03	The remaining 5 million Baht	• 225,000 Baht

17

## B. Percentage of Project Construction Cost

This method shall be used where "Percentage of Construction Cost" is not applicable. e.g. Master Plan, Construction Supervision etc.  
Compensation of this method shall be computed from the Basic Salaries of personnels engaged in the Project multiplied by the time spent in performing the services plus Direct Expense.

### 1. Direct Personnel Expense

This shall include cost of salaries, employee benefits and office overhead.

In general, the Basic Salary shall equal to 2.145 - 2.5 of employee salary. (Employee Benefit 35.40% of salary, Office Overhead 60-90% and Profits 10%)

### 2. Other Direct Expenses

In addition to Direct Personnel Expense described in 3.2.1., other reimbursable expenses shall be computed from direct expenditure made by the Architect in the interest of the Project. These are

- a. Expense of documents and drawings reproduction
- b. Expense of Transportation, per diem and accommodation
- c. Communication Expense
- d. Expense of renderings or models
- e. Expense of the Project Financial Analysis
- f. Expense of Specialty Consultants
- g. Expense of field surveys
- h. Other expense incurred through the Work upon presentation of the Architect's statement of services rendered

18

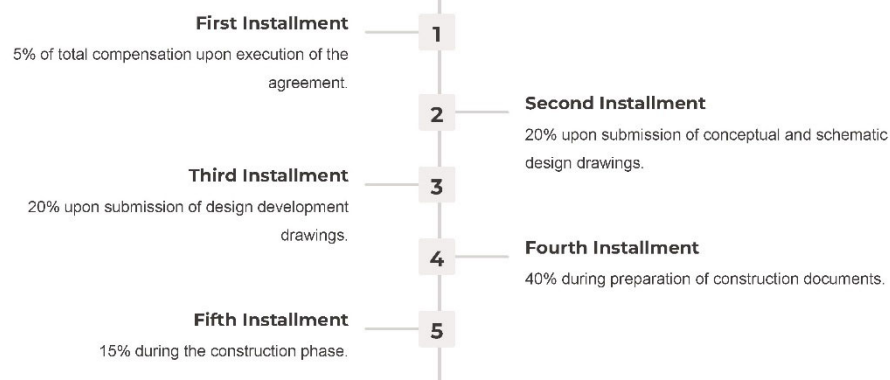
## Compensation for Extensions or Additions

Additional Compensation shall be paid to the Architect in the following circumstances.

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>1 Multiple architect offices working on one project:</b><br/>Architect gets 25% extra pay.</p> <p>In the event that the Owner has the intention to engage more than one Architectural Offices to perform works on the same Project, the Architect shall be paid additional compensation equivalent to 25% of the Basic Compensation.</p> | <p><b>2 If owner hires separate engineering firm(s), architect coordinates and gets 30% extra pay.</b></p> <p>In the event that the Owner has the Intention to engage another engineering consulting firm for the design of one particular engineering system or all engineering systems. The Architect shall have the duties of coordination and shall be paid additionally for such services for the amount equivalent to 30% of the Basic Compensation.</p> | <p><b>3 If owner changes drawings/specs contrary to prior approvals, architect gets paid extra for resulting expenses.</b></p> <p>In the event that the Owner makes alteration to the Drawings and Specification and such alterations are inconsistent with written approvals or instruction previously given, the Architect shall be paid additional compensation for the actual expenses incurred by such alteration.</p> | <p><b>4 Project-related travel expenses, long-distance calls, and telegrams are covered.</b></p> <p>Expense of transportation and subsistence when travelling in connection with the Project, long distance calls and telegrams.</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

19

## Payments to the Architect



- Payment of First Instalment shall be computed from the Owner's estimated Project Cost.
- Payment of Second to fourth Instalment shall be computed from the Statements of Probable Project Cost prepared by the Architect.
- The 4 instalments of basic compensation and the remaining portion shall be adjusted by the Architect accordingly to the Detailed estimate of Project cost.

20

## Architecture Professional Fee in Thailand

**2 Source to references:**

### 1. THE STANDARDS OF ARCHITECTURAL ETHICAL PRACTICE CONCERNING THE PROFESSIONAL SERVICES AND COMPENSATIONS 1983

by The Association of Siamese Architects under Royal Patronage (ASA)  
Appendix F: Standards of Professional Practice in Architecture B.E. 2532 (1989)

- Section 3: Professional Practice in Architecture

หนังสือ กฏีนิเทศฉบับที่ 2547

ภาคผนวก ก: มาตรฐานการปฏิบัติวิชาชีพสถาปัตยกรรม พ.ศ. 2532

### 2. Ministerial Regulation: Determination of Professional Fee for Construction Designer or Supervisor Act B.E. 2562 (2019)

Pages 1 - 6 /Royal Gazette /Volume 136/ Section 85 A /15 July 2019

หน้า 1 - 6 ราชกิจจานุเบกษา เล่ม ๑๓๖ ตอนที่ ๔๔ ก ๑๕ กรกฎาคม ๒๕๖๒

21

**Median Price by Category of Work**

Fee will be based on median price criteria for hiring consultants.

**% from Construction Budget**

Compensation is calculated as a percentage of the construction budget.

**Limitation**

There are limitations on certain types of work, which must not exceed specific percentages of the construction budget.

+

+

**Type of Works**

Group 1: Architectural works

Group 2: Rail transport works

Group 3: Others

(a) Road

(b) High-standard bridge or road

(c) Dam

(d) Irrigation

(e) A pier, waterfront or inland structure

(f) Underground utility system

(g) Waterworks

(h) Wastewater collection and treatment system

(i) Drainage system and flood prevention

(j) Airport

- In the case where the work is hired to design or supervise construction work according to Group 1, it must have more than one type of complexity in the same work and be the essence of the work which requires the use of the service rate averaging method.
- In the case where the construction design or supervision under Group 2 and Group 3 is not as specified in the list appended to the ministerial regulations, the wage rate must not exceed the percentage of the construction budget which is calculated by comparing the proportion of the project size as specified with projects of similar size. It must follow the calculation method specified by the Director-General of the Comptroller General's Department.

22

## Median Price: Group 1

No	Type	List	Project size (million baht)	Wage rate (not exceeding the construction budget)		
				Non-complicated	Complicated	High-complicated
1.	Architecture	Design	Less than 50	4.5	6.5	8.5
			From 50 and up but less than 250	4	5.25	7
			From 250 and up but less than 750	3.5	4	6
			From 750 and up but less than 2,500	3	3.5	5
			From 2,500 and up but less than 5,000	2.5	3	4
			From 5,000 and up	1.5	2.5	3
	Construction Supervision		Less than 50	4.5	6.5	8.5
			From 50 and up but less than 250	4	5.25	7
			From 250 and up but less than 750	3.5	4	6
			From 750 and up but less than 2,500	3	3.5	5
			From 2,500 and up but less than 5,000	2.5	3	4
			From 5,000 and up	1.5	2.5	3

23

## Median Price: Group 2

No	Type	List	Project size (million baht)	Wage rate (not exceeding the construction budget)	
1.	Rail transport	Design	Not more than 10,000	2.25	2
			30,000	2	1.75
			60,000	1.75	1.5
			More than 120,000	1.25	1
		Construction Supervision	Not more than 10,000	5.5	5
			30,000	5	4.5
			60,000	4.5	4
			More than 120,000	3.5	3

24



## Median Price: Group 3

No	Type	List	Project size (million baht)	Wage rate (not exceeding the construction budget)
1.	Road	Design	Not more than 100	3
			1,000	2.5
			5,000	2
			More than 10,000	1
		Construction Supervision	Not more than 100	3.5
			1,000	3
			5,000	2.5
			More than 10,000	1.5
2.	(a) High-standard bridge or road (b) Dam (c) Irrigation (d) A pier, waterfront, or inland structure (e) Underground utility system	Design	Not more than 100	4
			1,000	3.5
			5,000	3
			More than 10,000	2
		Construction Supervision	Not more than 100	4.5
			1,000	4
			5,000	3.5
			More than 10,000	2.5

25

## Median Price: Group 3

No	Type	List	Project size (million baht)	Wage rate (not exceeding the construction budget)
3.	(a) Waterworks (b) Wastewater collection and treatment system (c) Drainage system and flood prevention	Design	Not more than 100	4
			500	3.5
			1,000	3
			More than 2,000	2
		Construction Supervision	Not more than 100	4.5
			500	4
			1,000	3.5
			More than 2,000	2.5
4.	Airport	Design	Not more than 100	4.5
			500	4
			1,000	3.5
			More than 2,000	2.5
		Construction Supervision	Not more than 100	5
			500	4.5
			1,000	4
			More than 2,000	3

26



## Architectural Service in Thailand

General information of Architectural Service in Thailand



27

## Laws and Regulations in Thailand

The domestic law governing the architecture profession in Thailand is the Architect Act B.E.2543. Architect profession in Thailand is governed by the Architect Council of Thailand, (ACT) which comes under the purview of the Ministry of the Interior. ACT is responsible for the issuance of rules and regulations and providing licences for the 4 types of architecture.

Among ACT's other functions are:

- a. to promote the education, research and practising of the architectural profession;
- b. to promote harmony and conciliation among its members;
- c. to promote the welfare of and to honour the members;
- d. to control the behaviour and operation of persons practising the controlled architectural professional in compliance with the standards and etiquette of the architectural profession;
- e. to support, advise, disseminate and service academic subjects for the people and other organisations in connect with architectural science and technology;
- f. to provide consultation or advise for the government relating to architectural and technological problems and policies;
- g. to act as a representative of persons practicing the architectural profession in Thailand; and
- h. to perform any other activity as prescribed in the Ministerial Regulations.

The architecture profession in Thailand includes architecture; urban design; landscape architecture; and interior architecture.

## Qualifying as an Architect in Thailand

- It is provided in the Architects Council of Thailand Act 2000 that, "No one shall practice the controlled architectural profession or represent himself in any manner to mislead another into understanding him as able to practice any field of the controlled architectural profession unless he is licensed to practice such field granted by the Council of Architects (ACT)."
- **There are 4 levels of architects in Thailand, namely: Charter Architects; Professional Architects; Associate Architects; and Corporate Architects.**
- To qualify as an Associate Architect, an applicant must have a 5 year degree programme where the applicant is not required to have any prior experience in architecture. An applicant with a 4 year degree programme is required to have 1 year experience prior to applying to become an associate architect and an applicant with a 4 year degree programme in the related field of architecture as approved by the Council will be required to have a 2 years' experience prior to applying to become an associate architect.
- The Council also accepts application from those with a diploma in the related field of architecture as approved by the Council who will be required to have a 3 years' experience prior to applying to become an associate architect. Those with a certificate in the related field of architecture as approved by the Council may also apply but will be required to have a 4 years' experience prior to applying to become an associate architect.

## Qualifying as an Architect in Thailand

- All candidates will have to sit for an official examination as set by the Council. Applicants are to be examined on the following topics:
  - a. knowledge of liberal arts;
  - b. knowledge of professional practice;
  - c. planning capability;
  - d. analysed capability;
  - e. attitude;
  - f. sustainable development;
  - g. communication ability; and
  - h. knowledge of constraint.
- Applicants will also be asked to conduct self-assessment report of curriculum and direct assessment by Site Visit.

## Architect Licencing in Thailand

- There are 4 levels of architects in Thailand, namely: Charter Architects; Professional Architects; Associate Architects; and Corporate Architects.
  - Professional Architect: To become a Professional Architect, an applicant must have at least 2 years' experience as an Associate Architect and must have at least 300 points of continued professional development and pass 4 official examination subjects
  - Chartered Architect: To become a Chartered Architect, an applicant must have at least 7 years practical experience as a professional architect and must have accumulated at least 700 points of continued professional development and pass 4 official examination subjects.
- Architects in Thailand must be licensed and work with licensed engineers to create professional drawings for any building construction. The level of license an architect or engineer has depends on their qualifications and expertise.
- Architects in Thailand charge different fees based on their license level, experience, and skills.
- To become a licensed architect in Thailand, you must:
  1. Be a member of the Architect Council of Thailand (ACT)
  2. Pass a knowledge test
  3. Meet the educational standards set by the ACT

## Setting-up an Architecture Practice in Thailand

- For a body corporate and partnership:
  1. At least half of its directors, or its managing director must be a person of Thai Nationality and obtain a licence from the Architects Council;
  2. The managing partner or manager must be the person of Thai nationality, and
  3. At least half of its partner(s) or its managing partner must be the person of Thai nationality and obtain a licence from the Architects Council.
- Architects may practice in the sole proprietorship, partnership or corporate body (limited liability company). Any practice must have a 51% minimum of the Thai interest in the equity. The firm must have the approval from the Ministry of Commerce.
- As it is a legal requirement that only Thai National are allowed to practise architecture in Thailand, foreign architects including ASEAN Architects must work with the local architects.
- Any foreign architect wishing to work or practice in Thailand must apply for a Non-Immigrant Visa. Various categories of the Non-Immigrant Visa are currently provided to meet the needs and qualifications of individual business persons. These include business visa Category "B", business-approved visa Category "B-A" and investment and business visa Category "IB". Holder of this type of visa wishing to work in Thailand must be granted a work permit before starting work.

## Professional Associations in Thailand



# JIA's International Presidents Forum 2024

Prepared by KIRA

## How to Procure Architects for a Public Building in ROK

November 29<sup>th</sup>, 2024



### Table of contents

01. KIRA at a glance
02. Major Domestic changes in 2022 : **mandatory membership to practice**
03. Legal framework of ROK regarding the selection of Architects for Public Building
  - Framework Act on Architecture / 2007
  - **Act on promotion of Architecture Service Industry / 2014**
  - Design competition standard of Public Procurement Service / 2018
  - Rules in Government Contract execution / 2018
04. Design Fee Matrix for public projects, Ministry of LIT / 2009 and revised ...
05. Real world applications
  - e-procurement system, public procurement office, Central government
  - e-project Seoul, Seoul Metropolitan Government
  - 'SEUMTER', e-portal for submission

### 01. KIRA at a glance

#### 1.1 Number of Members & Firms

As of 19 Nov 2024

Category		2023		2024	
		No. of members	Ratio	No. of members	Ratio
Member, KIRA	Male	14,224	87.2%	14,726	86.22%
	Female	2,094	12.8%	2,352	13.77%
	Total	16,318	100.0 %	17,078	100.0 %
Member, KARB		18,807		19,652	
Architects' Office	Individual	10,951	72.1%	11,452	71.59%
	Corporate	4,246	27.9%	4,543	28.40%
	Total	15,197	100.0 %	15,995	100.0 %

\* KIRA : Korea Institute of Registered Architects  
\* KARB : Korea Architects Registration Board

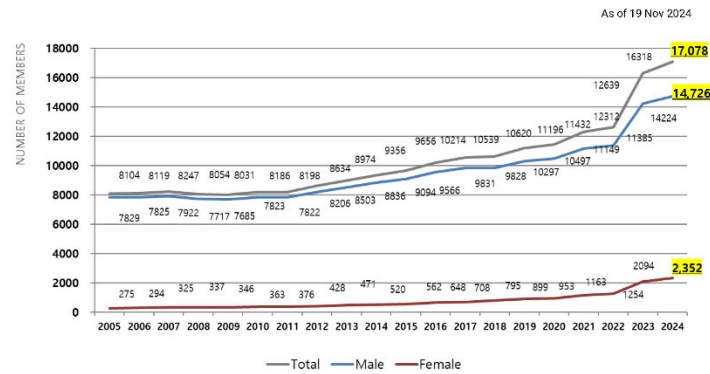
#### 1.2 Budget

— Total Account in year 2024 : 19,612,663,000 KRW (15.08 million USD) \* 1,300KRW = 1 USD



## 01. KIRA at a glance

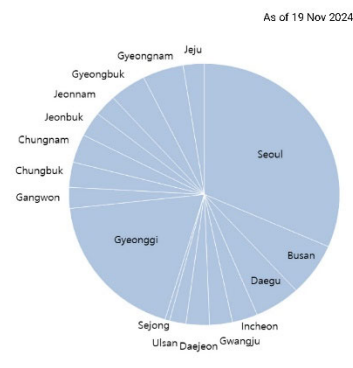
### 1.3 Gender Composition : 13.77% are female architects (2022: 9.5% 2023:11.5%)



## 01. KIRA at a glance

### 1.4 Composition Ratio per Regional Chapters

	Total	Percentage
Seoul	5,387	31.54
Busan	1,126	6.59
Daegu	935	5.47
Incheon	521	3.05
Gwangju	465	2.72
Daejeon	476	2.79
Ulsan	334	1.96
Sejong	95	0.56
Gyeonggi	3,175	18.59
Gangwon	444	2.60
Chungbuk	529	3.10
Chungnam	600	3.51
Jeonbuk	527	3.09
Jeonnam	456	2.67
Gyeongbuk	744	4.36
Gyeongnam	836	4.90
Jeju	428	2.51
<b>TOTAL</b>	<b>16,845</b>	<b>100%</b>

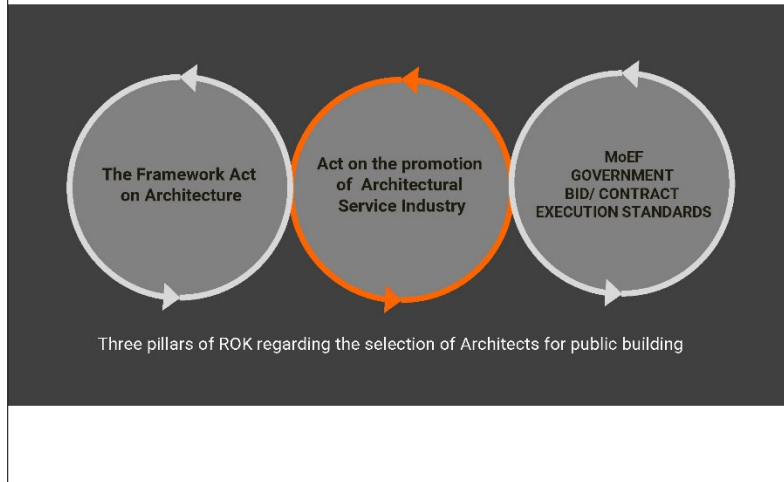


## 02. Major Domestic changes in 2022

### 2.1 Mandatory membership to practice architecture : as of Aug. 4<sup>th</sup>.

- After 6 years of efforts through long public hearings in National Assembly
- KIRA was finally designated as a sole institute to represent Korean architects in general
- It became mandatory to join KIRA to practice architecture in ROK.
- Amedment of the Architects Act has been achieved But February 3<sup>rd</sup>, 2022
- Effective in "Act on Registered Architects" as of August 4<sup>th</sup>, 2022.
- This situation will further add more energy and enthusiasm.
- But KIRA also needs to transform itself into a more open, transparent and diversified.
- Embracing new members, open to new ideas and try to build responsible practice.

### 03. Legal framework of ROK regarding the Selection of Architects for Public Building



### 03. Legal framework of ROK regarding the Selection of Architects for Public Building

#### 3.1 The Framework Act on Architecture [건축기본법]

- Legislated in December 2007
- **The first legislation to perceive architecture as a part of culture.**
- To contribute to the healthy living and improvement of the welfare of the people by defining the responsibilities of the national and local governments, and the people, regarding architecture, and by stipulating the establishment and implementation of architectural policies and promoting architectural culture.
- To realizing the living space, social, cultural and public nature of architecture
- Establishment of basic Architectural policy plan (by the Minister of Land Infrastructure and Transport every 5 years)
- National Architecture Policy Committee
- Promotion of architectural culture, Setting architectural design standards, Participation of private experts, Implementation of design competition
- Operation of Korean Building Regulations

#### \* **National Architecture Policy Committee**

- Established in December 2008
- To deliberate on important policies in the field of architecture and implement coordination of architectural policies (under the President)
- Consists of no more than 30 members, including one chairperson

### 03. Legal framework of ROK regarding the Selection of Architects for Public Building

#### 3.2 Act on the promotion of Architectural Service Industry [건축서비스산업진흥법]

\* Proclamation : June 4, 2013 / Effective date : June 5, 2014

- **To increase architectural design competition for public projects**
- **To foster emerging young architects**
- To apply approved standard contract form for fair business
- **To protect the Architectural Profession in the contracts with the national and local governments**
- To promote the standardization for design information system, design guideline and procurement system as a basis design service
- **To protect intellectual property rights of architectural design and new technology.**
- To simplify Procurement system and enforcement of the Act

### 03. Legal framework of ROK regarding the Selection of Architects for Public Building

#### 3.3 Act on the promotion of Architectural Service Industry [건축서비스산업 진흥법]

##### ■ Article 1 (Purpose)

· The purpose of this Act is to establish the foundation for the development of the architectural service industry by establishing matters necessary for the support and promotion of the architectural service industry, and to contribute to the promotion of the national convenience and the development of the national economy through the promotion of the architectural service industry

##### ■ Article 2-5 (Public institution)

· The term "public institution" means any of the following institutions or organizations:

- (a) State agencies;
- (b) Local governments;
- (c) Public institutions prescribed in Article 4 (1) of the Act on the Management of Public Institutions;
- (d) Local public enterprises prescribed in the Local Public Enterprises Act.

##### ■ Article 21 (Promotion of Design Competitions)

- (1) To promote the building service industry and to enhance the dignity of public building, public institutions shall select an appropriate method for placing orders by taking into account, among other things, the characteristics, size, and construction costs of buildings to be commissioned.
- (2) When a public institution intends to deliver buildings for public use, selection of design (referring to the design prescribed in the Registered Architects Act) of buildings, etc. that meet the purpose and scale prescribed by Presidential Decree with a view to creating excellent buildings, etc., it shall adopt public competition as the preferred method for delivering projects; and matters necessary for the target, standards, procedures, etc. of public competitions shall be prescribed by Presidential Decree.

### 03. Legal framework of ROK regarding the Selection of Architects for Public Building

#### 3.4 Presidential decree on the promotion of Architectural Service Industry [건축서비스산업 진흥법 시행령]

##### ■ Article 17 (Cases to apply design competitions)

- ① Design fee is more than 70,000 US dollars ( 100 million KRW) this excludes factories, storage, animal facilities...
- ② If a public institution desires NOT to take design competition as a method of delivery, they should get approval from the Central committee of MOLIT. (Ministry of Land Infrastructure and Transport).
- ③ Public institutions are not allowed to bury the scope of design into different construction, which is allowed to procure through other means of tender. / 2019

#### 3.5 Ministry decree on the promotion of Architectural Service Industry [건축설계공모 운영지침]

- Architectural Design Competition operation Guidelines
- <https://law.go.kr/admRulslInfoP.do?admRulId=45028&efYd=0>

##### ■ Article 14; announcement of the competition result

· Within 7 days from the competition evaluation, it is mandatory to announce the evaluation result @SEUMTER (e-portal for submission and other electronic means such as homepage)



### 03. Legal framework of ROK regarding the Selection of Architects for Public Building

#### 3.6 (CONTRACT RULES) GOVERNMENT CONTRACT EXECUTION STANDARDS, Ministry of Economy and Finance

##### ■ Article 8-2 (Execution of Contract for Design Services, etc.)

· When a public official in charge of contracts intends to conclude a contract with the winner of a public competitions under Article 21 of the "ACT ON THE PROMOTION OF BUILDING SERVICE INDUSTRY" in accordance with Article 26 (1) 2 of the Enforcement Decree, the fee determined in the public announcement shall not be reduced to conclude a contract. [This Article Newly Inserted on December 31, 2018]

· Enforcement decree on Architectural DESIGN COMPETITIONS by PUBLIC PROCUREMENT SERVICE, 조달청 건축 설계공모 운영기준 / 2018.1.1

##### ■ Article 5 (Announcement of Design Competition etc./ 설계공모 등의 시행공고)

- ① When the head of the contracting department intends to announce a design competition etc., he/she shall make a public announcement referring to the followings.
- (b) Total Estimated Project Cost and Design Fee

##### ■ Article 25-2 (compensation to other selected entries in Design Competitions)

- Winner – design contract
- Other selected entries : compensation 5/10, 4/10, 3/10, 2/10  
(a budget equivalent to 10% of the estimated design cost within a range of up to 100 million Korean won) appx. 72,000 USD

## 04. Design Fee Matrix

### 4.1 Design Fee Scale/Architect's scope of work and compensation standards for public procurement projects(Ministry of Land, Infrastructure and Transport Notice) :

- Fee scale is applied to public sector to secure quality of projects, fee for private sector is dependable to be competed per directed by National Fair-Trade Commission
- Need to realize proper fee scale to meet requirement for additional services increased by recent trends; eco-friendly design, BIM, IBS, Barrier-free and others

### 4.2 Design Fee in Percentage against Estimated Construction Cost (ECC)

ECC (KRW)	Design Category	Class-2			ECC (KRW)	Design Category	Class-2		
	Document Category	A	B	C		Document Category	A	B	C
50 Mil. (USD 40,000)		11.41	9.51	7.61	10 Bill.		5.07	4.22	3.38
100 Mil.		10.43	8.69	6.95	20 Bill.		4.92	4.10	3.28
200 Mil.		9.08	7.57	6.57	30 Bill.		4.84	4.03	3.23
300 Mil.		7.88	6.57	5.26	50 Bill.		4.77	3.98	3.18
500 Mil.		7.18	5.98	4.79	100 Bill.		4.68	3.90	3.12
1 Bill.		6.39	5.32	4.26	200 Bill.		4.60	3.84	3.07
2 Bill.		5.66	4.72	3.77	300 Bill.		4.55	3.79	3.03
3 Bill.		5.38	4.48	3.58	500 Bill. (USD 400MIL.)		4.48	3.73	2.99
5 Bill.		5.20	4.33	3.46					

\* Design Category indicates complexity of design ( Class-2 is average complexity)

\* Document Category indicates Complexity of projects (A > B > C)

## 05. Real World Applications

### 5.1 Korea e-Procurement System / <https://www.g2b.go.kr/index.jsp> (나라장터)

- The National Integrated Electronic Procurement System is an electronic procurement system operated by the Act on the Promotion and Use of Electronic Procurement,

### 5.2 Project SEOUL / <https://project.seoul.go.kr/main/viewMain.do>

- To stop bidding based on price competition in ordering public buildings in Seoul and switch to design - centered design competitions & to raise the design level of public buildings(large-scale buildings such as public offices or even just a small-scale community center or library)
- Seoul Metropolitan Government, Seoul Housing & Communities Corporation, 25 autonomous districts.
- Simplification of design competition submission documents according to competition method
- Securing expertise in evaluation (operation of advisory group)
- Improvement of evaluation for expanding the autonomy of the evaluation committee (scoring system → voting system)
- Planning through competition method considering the characteristics of the project (open → Implementation of pilot project to expand participation planning by young architects, etc.
- A platform for real-time broadcasting of the Seoul City public architecture project design competition evaluation and communication with participants / <https://www.youtube.com/@projectseoul2023>

### 5.3 SEUMTER, e-portal for digital submission/

<https://www.eais.go.kr/moct/awp/agd99/AWPAGD99V01>

- SEUMTER (National administration for houses and building) : a nationwide architectural administration digital platform

**Thank you !**





## JIA's International Presidents' Forum

### 韓国建築家協会発表資料

- CHULHEE KANG, HONORARY PRESIDENT OF THE KIA  
-カン・チュルヒ名誉会長



1-1. In your country, is the selection of an architect for a public building determined solely by the lowest bid?

In Korea, the low-bid procurement method is just one way to select an architect for a public building project. Broadly speaking, there are two widely adopted methods for selecting an architect. One is selection based on the lowest bid. And the other is selection through a design competition. Importantly, **the Architecture Industry Promotion Act** states that priority must be given to the method of selection through a design competition if the estimated cost of design for a building project **Design-Fee exceeds 100 million won or about 71,200 US dollars**. Also, **the same applies if the building project is a facility to be used by the public**, so to speak, a large number of residents, such as a local community center, a kindergarten, or a facility for the elderly and children, and thus needs to be designed to take into account special considerations.

最低価格入札方式のみによって建築家を選ぶわけではありません。大別すると、価格に基づく入札方式と、建築設計コンペによって建築家

を選ぶ方法があります。韓国では「建築サービス産業振興法」に基づき、設計費の推定価格が1億ウォン以上の場合で、地域自治センター・幼稚園・老幼者施設など多数の住民が利用する施設として設計の際に特別な考慮が必要な建築物の場合は、設計コンペ方式を優先して採用しなければならないことになっています。

1-2. If architects are selected solely on the basis of low design fees, please let us know to what extent this is customary in your country.

South Korea had experienced many negative effects of the lowest-bid selection practice during its rapid industrialization. Since then, our nation has been making persistent efforts to promote better practices. In the lowest-bid selection practice, the cost is the primary determinant of decision-making. This means creativity and innovative ideas in a design are likely to be disregarded. This means an incompetent architect could be selected over competent architects for a public project. It ultimately fuels the mass production of poorly designed buildings. Needless to say, it also raises the risk of sloppy construction. To sum up, the low-bid procurement method undermines healthy competition and thus impedes the growth of the architecture industry.

韓国は急速な工業化の過程で最低入札方式による多くの悪影響を経験しました。それ以来、わが国はより良い方式を推進するための努力を続けています。最低価格入札方式により建築家を選ぶ方式は、価格のみに焦点を合わせているので、クリエイティブかつ革新的な設計アイディアが見過ごされる恐れがあり、これは建築物の質の低下につながっています。また、設計能力などに優れた建築家ではなく、設計能力に劣る建築家も公共建築物の設計建築家として選ばれる可能性があるため、設計の質が低い建築物が量産される可能性も秘めています。こ

れはさらに、ずさんな工事にもつながります。結果的に、健全な競争を阻害し、建築設計産業の質的な低下につながる恐れがあるのです。

2-1. Are there any laws in your country regarding the selection of architects for public buildings?

2-2. Please provide the name of the law, if any, and the year it was enacted.

South Korea has two key national laws on architecture in place. One is **the Framework Act on Architecture** and the other is **the Architecture Industry Promotion Act**.

The Framework Act on Architecture was put into effect in 2007 to: (1) define the responsibilities of the central and municipal governments, and citizens, in connection with the design of buildings; (2) require the formulation and implementation of policies on architecture; and (3) promote the cultural dimension of architecture.

To give you an overview of the main content of **the Framework Act**, it, first of all, sets the basic direction of the nation's policy on architecture, including clauses stipulating what policies must be established and what matters they must address. Also, it requires the formation of a national committee on architecture policies. Going deeper, the act stipulates the promotion of the cultural aspects of Korean architecture and sets out requirements for building design regulations.

Subsequently, **the Architecture Industry Promotion Act** was enacted in 2013 to nurture the Korean architecture industry. Under the overarching goal stated in its title, the act sets out provisions stipulating the laying of the foundation for the architecture industry, empowerment of architecture, and the enhancement of the quality and characters of buildings. It also requires the formation of a public agency to promote the role of architecture.

Under the two laws, public projects are required to select architects through design competitions so that the focus of building design will be on the

realization of the design intent of architects.

Plus, each municipal government are required to employ a **Chief Architect and/or a Municipal Architect**. These positions are born out of the need to have private architecture professionals on board as public officers for public projects and urban planning so that they will help improve the quality and design of public buildings. The Chief Architect serves as an advisor to a city mayor or the governor of a province, as well as supervising the coordination of building projects and urban developments within the municipality for which he or she is responsible. On the other hand, **the Municipal Architect or the City architect**, as the name varies depending on the type of municipality, involve themselves more deeply in the pre-design and design processes for individual projects.

Many municipal governments in Korea have these government-employed architect positions in place, including the Seoul Metropolitan Government, and Chungbuk Province. As of May 2024, a total of 34 Chief Architects and a total of 1,142 Municipal or City Architects are working for 62 municipal governments across the country—25% of the local governments in Korea.

建築基本法と建築サービス産業振興法が制定されています。

建築基本法は、建築に関する国及び地方自治体と国民の責務を定め、建築政策の策定・施行などを規定し、建築文化を振興するための目的で2007年に制定されました。国の建築政策の基本方向及びその策定と内容、国家建築政策委員会の運営、韓国の建築文化の振興と韓国の建築規定の運用などを主な内容としています。

建築サービス産業振興法は、建築サービス産業の支援・育成・振興を目的として2013年に制定されました。建築サービス産業の基盤づくり、活性化、建築物の品格を高めることによる建築サービス産業の振興、建築振興院の設立などを主な内容としています。

この両法に基づき、公共建築物の設計の際に、建築家の設計意図が実現されるよう設計コンペなどを実施しなければならず、各地方自治体は、総括建築家制度及び公共建築家制度を運営しています。この制度は、民間の建築専門家を公共建築及び都市計画分野に参加させ、公共建築物のデザインと品質を高めることを目標としています。総括建築家は地域の建築と都市デザインに関する総括的な調整と諮問を行い、公共建築家は個別のプロジェクトの企画と設計に参加します。こうした制度は、ソウル特別市や忠清北道など、現在では多くの地方自治体で導入され運営されています。2024年5月現在、韓国全国62の自治体(25%に当たる)において、総括建築家34人、公共建築家1,142人が活動しています。

3-1. Please provide any additional explanations you can provide regarding the selection of designers for public buildings in addition to the answers above. For example, provision of opportunities for young architects, movements to improve procurement of architects, or how to set up standards of selection of architects.

In addition to the Chief Architect and Municipal or City Architect positions at municipal governments, South Korea has administrative rules in place that require a preliminary feasibility analysis for a new public project, and the formulation and implementation of a national master plan for architecture policy.

A new public project must be examined in terms of its financial and technical feasibility, based on its size and scope, before deciding whether to invite bids for the design work. There is a public agency called the National Public Building Center that conducts this preliminary feasibility analysis to examine how the project can be implemented, what procurement methods may be used for the selection of an architect, and how to ensure proper implementation of the design.

South Korea has its third master plan for architecture policy in place. The latest master plan declares “an architecture that enriches everyday life and a built environment where life flourishes” as its vision. Guided by the high-level statement, the plan sets out 9 guiding principles including innovation in public architecture, creation of sustainable urban environment, and the expansion of the cultural dimension of architecture, as well as 18 detailed objectives.

Selecting an architect based on the lowest bid is to reduce architectural design work into a mere commercial activity. The true importance of architecture lies in creating added value.

総括建築家及び公共建築家制度の他にも、韓国には公共建築事業計画事前検討制度があり、建築基本法に基づき5年ごとに国は建築政策基本計画を策定・運営することになっています。

公共建築事業計画事前検討制度は、公共建築物の予算の削減及び品質の確保のために、設計発注前に事業計画の規模と内容の適正性を検討する制度です。国家公共建築支援センターがこれを担当し、事業の推進に関する事項、発注方法、デザインの管理方法などを検討します。

建築政策基本計画は、現在第3次計画が策定・運営されており、「日常の価値を高める建築、暮らしを幸せにする都市」をそのビジョンとして掲げています。このために、公共建築の革新、持続可能な街づくり、建築文化振興など9大推進戦略と18大推進課題を設定して取り組んでいます。

最低価格で建築家を選ぶ方法は、建築設計作業を商業行為に転落させるものです。建築設計は、価値の創造が最高の徳目です。

# JIA International Presidents' Forum

## How Architects Should Be Procured

JIA Convention, Beppu  
29 Nov 2024

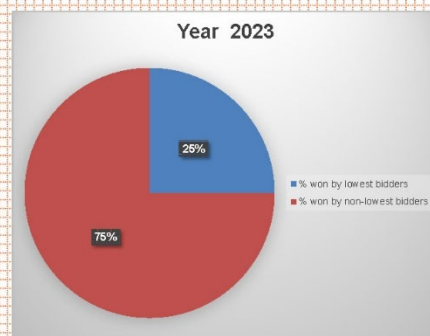
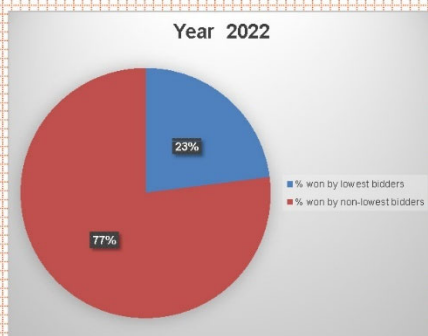


1-1. In your country, is the selection of an architect for a public building determined solely by the lowest bid?

1-2. If architects are selected solely on the basis of low design fees, please let us know to what extent this is customary in your country.

### Public Projects Awarded to Lowest Bidders

- Not determined by lowest bid





## Quality Fee Method (QFM) Framework

- Is a structured tender evaluation framework based on both fees and non-fees attributes to evaluate construction-related consultancy tenders.
- Adopts a range of weightages for evaluation of attributes and formalises the assessment of non-fees attributes into quantitative scores.

<u>Quality</u>		<u>Fee</u>
90%	_____	10%
80%	_____	20%
70%	_____	30%

## Quality Fee Method (QFM) Framework

### Tenderer's Eligibility for SPC+ Panel

1.1 After establishing the SPC 16 Panel, HDB may shortlist Architectural Consultants with track records of outstanding design and recognition for their contribution to the profession and their Multi-Disciplinary Teams would be invited to provide consultancy service for HDB Complex Building Projects. [From the SPC 16 Panel, Multi-Disciplinary Teams with Architectural Consultants who meet the following Tenderer's Eligibility will be shortlisted:](#)

- a. With the latest HDB Average Performance Score of "Good" and above; and
- b. Recipient of one of the following awards:
  - i. President's Design Award "Design of the Year" for a local highrise\* residential project
  - ii. Singapore Institute of Architects Architectural Design Award under the high-density housing category
  - iii. HDB Design Award for a housing or mixed development project in the past 5 years

\* Local highrise (10-storeys and above or building height of 35m and above) projects.

2-1. Are there any laws in your country regarding the selection of architects for public buildings?

2-2. Please provide the name of the law, if any, and the year it was enacted.



## Public Sector Panels of Consultants (PSPC)

- Established in 2004, it lists firms providing consultancy services for public sector building & construction projects
- Architecture is 1 of 5 key disciplines under PSPC
- Each discipline is divided into 4 panels with tendering limits on value of projects which firms can tender for
- Panel listing is pre-qualified based on track record, Gebiz bids on public portal.
- Firm must demonstrate its ability or tie up with someone who can deliver the project

3-1. Please provide any additional explanations you can provide regarding the selection of designers for public buildings in addition to the answers above. For example, provision of opportunities for young architects, movements to improve procurement of architects, or how to set up standards of selection of architects.

## SIA Competition Guidelines

The project would benefit from the creative minds of many architects, driven by the knowledge that they will have to produce their best work through a transparent evaluation/selection systems to have a chance of winning the competition.

### 4 Principles in SIA Competition Guidelines

- a) Good building brief
- b) Professional advice to establish constraints of competition site
- c) Qualified judges
- d) Anonymous submission and selection

Singapore Institute of Architects (SIA) has the ability and capability to organise open competitions in compliance to the SIA Competition Guidelines.

SIA Competition Guidelines: <https://sia.org.sg/awards/architectural-design-competitions/>



## Public Project Competitions by SIA

Founders' Memorial Design Competition (March 2020)



By Kengo Kuma & Associates in collaboration with K2LD Architects

## Recent Public Project Competitions by SIA

Bukit Merah Town Centre Placemaking Challenge (November 2024)



"The Tale of the Swordfish & The Seven Hills"  
by OWAA Architects LLP in collaboration with local artist Tobyato

Competition Results: <https://sia.org.sg/bukitmerahchallenge/results/>

## Recent Public Project Competitions by SIA

Raffles Place Park Redevelopment Design Competition  
(results to be announced in Dec 2024)





## Competitions open to Architects ≤ 45 yo

Geylang Serai Precinct Competition  
(July 2021)



by BDP Architects (Southeast Asia) Pte Ltd

Queensway Node Design  
Competition  
(closed in November 2024)



## Public Project Consultancy organised by SIA

Paya Lebar Air Base (PLAB) Masterplanning  
- Individuals form team to build capabilities otherwise out of reach



Hap(P)y Lab led by ARCStudio and Old Town Urban Design team members

Thank you.



X

その他の活動



# “More Or Less” インドネシアの建築家 Riri Yakub 氏の展覧会とトークイベント

Exhibition & Discussion Night | “More Or Less” by Atelier Riri

本イベントは建築コミュニティにおける見識の交換、有意義なつながりの構築を促進する目的で、IAI（インドネシア建築家協会）の要請を受け、JIA（日本建築家協会）が公式サポートしたものである。展覧会初日には日本とインドネシアの建築家たちが集まりトークイベント（ディスカッション）がおこなわれ、日本からは3人のJIAメンバーが登壇した。

## Exhibition “More Or Less” by Atelier Riri

会 期：2024 年 5 月 17 日（金）～26 日（日）9:00-19:00

会 場：Kopi Kalyan Tokyo コピカリアン 東京（東京都渋谷区神宮前 6-15-14）

## Discussion Night : Design Diplomacy in Architecture

日 時：2024 年 5 月 17 日（金）17:00-18:30

会 場：Kopi Kalyan Tokyo コピカリアン 東京（東京都渋谷区神宮前 6-15-14）

テーマ：Design Diplomacy in Architecture

登壇者：Riri Yakub（Novriansyah Yakub）、Andra Matin、川添善行、小山光、手塚貴晴

モデレーター：Lim Masulin



メインビジュアル



展覧会フライヤー



トークセッションフライヤー



会場のコピカリアン東京



会場の様子



Riri Yakub (Novriansyah Yakub) 氏



Andra Matin 氏





手塚貴晴氏



川添善行氏（左）、小山光氏（右）



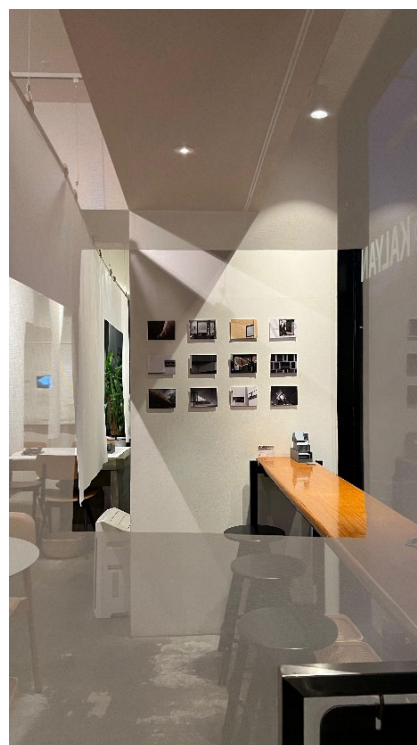
竹馬大二国際委員長



会場の様子



会場の様子



# ドイツ・HAWK 応用科学芸術大学への TOD レクチャー@PYNT 開催報告

TOD Lecture for the HAWK University of applied sciences and arts @ PYNT

ドイツから研究旅行で東京を訪れた HAWK University of applied sciences and arts / Holzminden（HAWK 応用科学芸術大学/ホルツミンデン）の教授と学生に向け、国際委員会委員長・日建設計の竹馬氏および日建設計の Jan 氏によるレクチャーイベントを開催した。会場は「PYNT」。組織や立場を超えた出会いを通じてコラボレーションを加速させ「共創」をつくる場として、日建設計東京オフィス 3F に開設されたプラットフォームであり、本イベント開催にあたり大きなご協力をいただいた。

竹馬国際委員長より日本橋エリアの移り変わりと東京の TOD（Transit Oriented Development、公共交通指向型開発）について渋谷エリアの開発について、Jan 氏から日建設計のプロジェクトについてレクチャーに対し、ドイツと日本の違いについて等、教授や学生から多くの質問があがった。

## ■概要

日 時： 2024 年 6 月 3 日（月）16:00-18:00

会 場： PYNT（東京都千代田区飯田橋 2-18-3 日建設計東京本社ビル 3F）

参加者： 【日本】JIA 国際委員会： 竹馬大二（委員長・日建設計）・伊藤友紀・蔵楽友美・林エミ・羽山恵

日建設計： Jan Henckens ・ Bedini Raffaella ・ 宮下けい子

【ドイツ】 HAWK University of applied sciences and arts / Holzminden :  
Administrator Prof. German Halcour ・ Prof. Dr. Florian Hackelberg  
他、学生 12 名（計 14 名）



日建設計の Jan Henckens 氏



質疑の様子



# 香港理工大学專業進修学院の学生たちとの表参道建築ツアー 開催報告

JIA Field Trip for The Hong Kong Polytechnic University

PolyU SPEED (The Hong Kong Polytechnic University the School of Professional Education and Executive Development、香港理工大学專業進修学院) の学生たちが JIA を訪問し、高階澄人氏 (渋谷地域会代表／国際委員会アドバイザー) が東京の都市開発の歴史についてのレクチャーをおこなった後、3 グループに分かれて渋谷区神宮前の JIA を出発し、表参道一帯の「建築ショーケース」を見学、国立代々木競技場をゴールとする建築ツアーをおこなった。

このイベントの企画は、PolyU SPEED の学生代表の Jimmy さんが JIA に連絡をくださったことから始まる。ツアーには引率の先生 2 名が同行しておられたが、香港の 20 代の若い学生たちの企画・行動・実現力には受入れ側の国際委員会にとっても大きな学びがあった。

また、日本側は国際委員会・渋谷地域会の建築家と千葉大学の建築学生が参加。若手の建築家・大学院生・大学生・留学生ら日本の 20 代の建築コミュニティがツアーの大きなサポートとなった。地域会・大学とのコラボレーションの機会が得られただけでなく、建築家の卵たちの姿を頼もしく感じられる機会となった。

## ■概要

**日 時：** 2024 年 6 月 6 日 (木) 13:00-17:00

**会 場：** 建築家クラブ (東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館 1F)、渋谷区内

**参加者：** 【日本】高階澄人 (JIA 国際委員会アドバイザー、JIA 渋谷地域会代表)

JIA 国際委員会：伊藤友紀、新井今日子、蔵染友美、林エミ、羽山恵

JIA 渋谷地域会：菅原賢二、古谷賢、佐々木純也、鈴木彩生、東伊吹、  
竹元玲浩、三島礼、草野遥

千葉大学：堀越紗瑛、斗沢香葉、石橋太士、甲田理紗、榎本健佑、  
大島陸翔、柏木大翔、Gessner Julia、Kamaliyev Bolat、  
Apriamashvili Temuri、Chang Yuchen

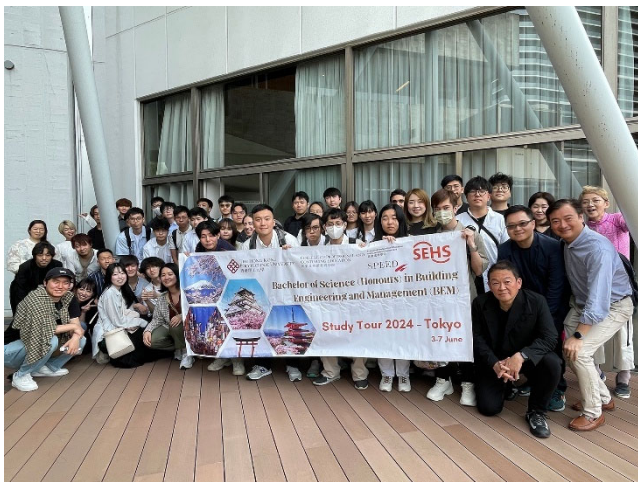
【香港】PolyU SPEED：Li Chi Yi, Jimmy (Student), Dr Edmond Lam (Lecturer),  
Steve (Lecturer), Total 23 students and 2 lecturers



高階澄人国際委員会アドバイザー



学生代表の Jimmy さん



集合写真



参加者全員の自己紹介

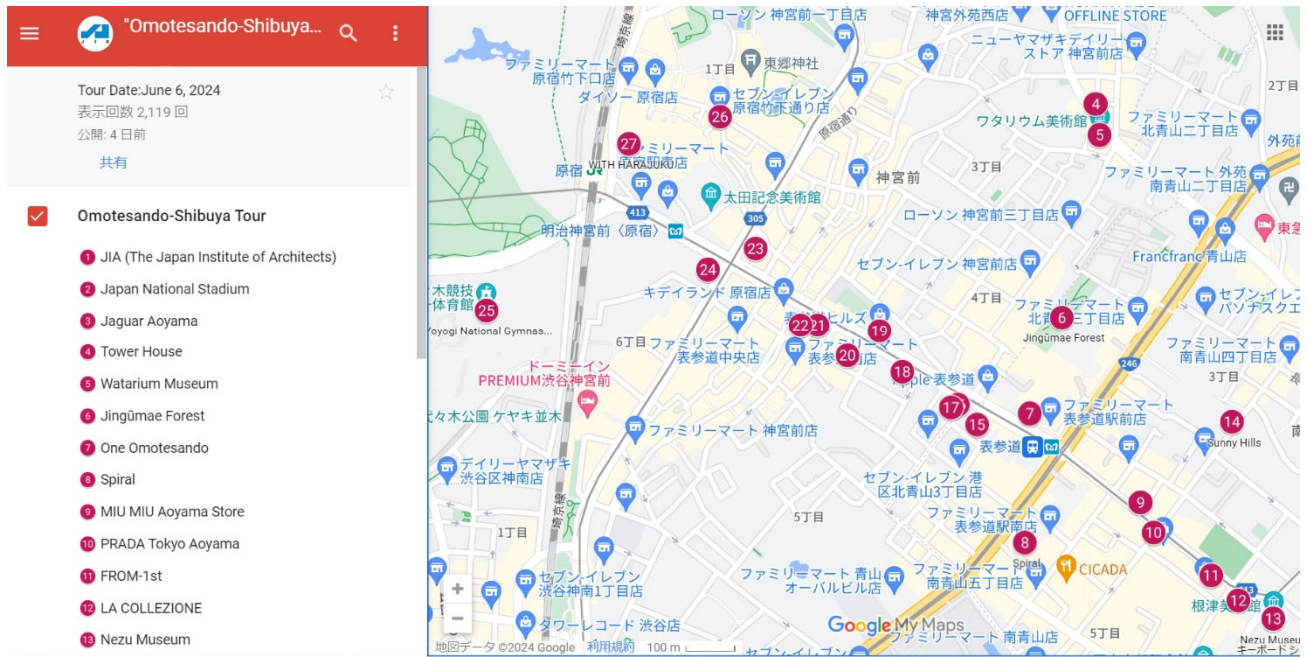


参加者全員の自己紹介



JIA を起点に街歩きに出発





街歩きマップ



スパイラル（槇文彦）を道路向いから眺めてから内部見学へ



フロムファーストビル（山下和正）



プラダ（ヘルツォーク&ド・ムーロン）



ゴールの国立代々木競技場（丹下健三）前

# カリフォルニア大学サンディエゴ校の学生たちとの表参道建築ツアー 開催報告

JIA Field Trip for The University of California San Diego

The University of California San Diego (カリフォルニア大学サンディエゴ校)の学生たちが JIA を訪問し、レクチャー&街歩きイベントをおこなった。日本側は、国際委員会をはじめ、建築事務所の若手メンバー、千葉大学、武蔵野美術大学、慶応大学の建築学生が参加した。

午前 9 時より、高階澄人氏（国際委員会アドバイザー）が東京の都市開発の歴史についてレクチャー、聴講後は学生たちから活発な質問が飛び交い、日本の都市に点在する神社への考え方や東京 23 区と多摩地域の違いなどについて、質疑応答をおこなった。その後、2 グループに分かれ、渋谷区神宮前の JIA を出発し、表参道一帯の「建築ショーケース」の街歩きをした後、昼食をはさみ、国立代々木競技場を見学、午後 3 時にイベントを終了した。

最終地点の国立代々木競技場第一体育館の内部見学では、実際にスタンド席やアリーナにも足を踏み入れることができ、貴重な時間となった。サンディエゴの気候とは違い、温度も湿度も高い東京での街歩きとなったが、建築を通じて海外の学生と日本の学生の交流が深まり、楽しく充実したフィールドトリップとなった。

## ■概要

**日 時：** 2024 年 7 月 23 日（火） 9:00-15:00

**会 場：** 建築家クラブ（東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館 1F）、渋谷区内

**参加者：** 【日本】 JIA 国際委員会： 高階澄人（国際委員会アドバイザー）・伊藤友紀・

新井今日子・柳澤要（千葉大学）・羽山恵

高階澄人建築事務所： 佐藤絢香・津村鈴

千葉大学： 堀越紗瑛・斗沢香葉

武蔵野美術大学： 山田侑奈

慶応大学： 劉象格

IES（全米大学連盟東京留学センター）： 石川真理子・北村奈美

【カリフォルニア大学サンディエゴ校】 Prof. Mark Guirguis、他学生 24 名、計 25 名





企画担当の伊藤友紀国際委員



柳澤要氏



集合写真



ツアーの様子



ツアーの様子



国立代代木競技場（丹下健三）



## 中国・広東省工程勘察設計業界協会へのレクチャー@PYNT 開催報告

Lecture for Guangdong Engineering Exploration & Design Association @ PYNT

中国から来日した広東省工程勘察設計業界協会のメンバーに向けレクチャーイベントを開催した。日本橋エリアの移り変わり、歴史的建造物の保存、これからの日本橋エリアの発展についての竹馬国際委員長のレクチャーと Q&A セッションでは、日本での設計業務の流れや JIA の賞などについての質問など、盛況となった。会場は国際委員会のイベントでは 2 回目となる「PYNT」で、XR STUDIO や多様性を尊重したトイレ等の見学もふくめ、今回も大きなご協力をいただいた。

### ■概要

日 時： 2024 年 10 月 25 日（金）10:30-12:00

会 場： PYNT（東京都千代田区飯田橋 2-18-3 日建設計東京本社ビル 3F）

参加者： 【日本】JIA 国際委員会： 竹馬大二（委員長・日建設計）・伊藤友紀・蔵楽友美・羽山恵  
日建設計：宮下けい子

【中国】広東省工程勘察設計業界協会のメンバー 計 21 名



PYNT 見学の様子



レクチャーと Q&A の様子



記念品をいただいた



集合写真

## YouTube 動画 「UIA Report」

2023-26 年期中で UIA リージョン IV のカウンスルメンバーを務める国広ジョージ氏が JIA メンバーへ UIA の様子を伝えるための動画制作を、昨年度よりおこなっている。本年度は国際会議の様子、佐藤尚巳会長と国際委員会メンバーへのインタビュー動画をリリースした。日本語・英語の字幕をつけることで、外部にも情報発信できるツールかつ国際活動のアーカイブにもなる成果品を目指している。また、総集編の動画を JIA Web セミナーとして CPD を付与した。国広氏の UIA 任期満了の 2026 年まで継続して情報発信の動画を作成していく予定である。

### 本年度公開の動画

- 2024.6.5 【UIA Report #2】 Zhang Li インタビュー前編：UIA 副会長に訊く UIA の今とアジアの可能性
- 2024.6.10 【UIA Report #3】 Zhang Li インタビュー後編：「アジアの世紀」と国広ジョージが UIA 評議員に立候補した理由
- 2024.7.30 【UIA Report #4】 佐藤尚巳・竹馬大二インタビュー前編：UIA コペンハーゲン大会と国際交流
- 2024.8.13 【UIA Report #5】 佐藤尚巳・竹馬大二インタビュー後編：「アフター国広」と次世代への継承
- 2024.9.2 【UIA Report #6】 藤沼傑・高階澄人インタビュー前編：UIA コペンハーゲン大会 2023
- 2024.9.19 【UIA Report #7】 藤沼傑・高階澄人インタビュー後編：JIA の国際活動のこれから
- 2024.10.28 【UIA Report #8】 第 163 回 UIA カウンスルミーティング in チュニス
- 2024.12.4 UIA Report #1～7 総集編（CPD 対象動画）

### UIA Report の再生リスト (JIA YouTube Channel)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLfMEGefGxYzPpMdRcgS7VpZWoi65UYfjP>



動画のサムネイル

## 2024 年度国際交流活動支部事業助成

JIA 各支部が主体となって実施する国際交流活動への助成金支給による支援を例年通りおこなった。2024 年度の助成対象となった事業は以下の 4 事業で、国際委員会ホームページに報告書を公開している。

- ・東北支部 JIA 東北支部 & 台南建築家交流大会 2024 in 宮城
- ・近畿支部 住宅部会 国際交流事業 2024（ドバイ・アブダビ・カタール）
- ・九州支部 北福岡地域会 建築展 26（日韓合同学生ワークショップ）
- ・九州支部 鹿児島地域会 韓国全羅北道建築士会（KIRA 全北）国際交流

JIA 国際委員会ホームページ（アーカイブ） <https://jia-intl.org/archive/>



## 執筆者一覧

伊藤友紀	JIA 国際委員、ARCASIA ACYA 委員／伊藤友紀建築研究所
岩橋祐之	JIA 国際委員、UIA Sustainable Development Goals Commission 委員／日本設計
国広ジョージ	UIA リージョン IV カウンシルメンバー／ティーライフ環境ラボ
小西彦仁	JIA 副会長・北海道支部長／ヒココニシ アーキテクチャ
坂田泉	JIA 国際委員、UIA Social Habitat WP／一般社団法人 OSA ジャパン
櫻井伸	JIA 国際委員、ARCASIA ACSR 委員／久米設計
高階澄人	UIA リージョン IV カウンシルメンバー代行／高階澄人建築事務所
田口純子	UIA Architecture and Children WP／名城大学都市情報学部
竹馬大二	JIA 国際委員長、ARCASIA ACPP 委員／日建設計
新居照和	JIA 環境会議 WG、ARCASIA ACGSA 委員／新居建築研究所
藤沼傑	JIA 国際委員、UIA Professional Practice Commission 委員／ウィスト建築設計
水本浩二	JIA 国際委員 ／ アーキ・プラン
柳澤要	ARCASIA ACAE 委員、UIA Architectural Education Commission 委員／千葉大学

## 構成・編集

蔵楽友美	JIA 国際委員 ／ ファイブスー級建築士事務所
羽山恵	JIA 本部事務局

(所属は 2024 年度のもの、敬称略、五十音順)

---

## 2024 年度 JIA 国際活動報告書

2025 年 3 月末日発行

発行・編集 公益社団法人 日本建築家協会

〒150-0001 渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館 4F

---